主幹 海老名彈正

主筆 安井哲子

要目

家庭の感化こ基督敎 安井哲子

宗敎的素養 宮川經輝

子女敎育に對する母の務 海老名みや子

治療し得可き不具 醫學士 金子魁一

乞食心 無繋生

弱者の勝利 海老名彈正

妙華園を訪ふ 一記者

十一月號

第壹巻第八號

新女界第一卷第八號目次

●家庭の感化と基督教　安井哲子

思想

●宗教的素養　宮川經輝

●婦人發展の新方面　島貫兵太夫

家庭

●加納家々人の心得　安井哲子

●健康は天の特賜　元良よね子

●子女教育に對する母の務　海老名みや子

●治療し得可き不具　金子魁一

文苑

●乞食心（ゴーリキ）　無繋生

●日向葵（ハーン）　高濱長江

●基督教徒のなさけ（ハウワルド）　大塚楠男

●花藻（短歌）　田澤藤郎

●我が心（短歌）　侃四郎

講壇

●弱者の勝利　海老名彈正

雜錄

●妙華園を訪ふ

●日本の家庭に嫁したる英國婦人の經驗談

●彙報、編輯だより

新人第拾卷第拾壹號目次

●社　説

●第三期の基督教

●想　苑

●史的見地より宗教を論じて耶佛二教に及ぶ　中村長之助

●加藤博士の無神自利説を評す　マスターオブアーツ　白石喜之助

●ジーエーゴルドン博士に就て　神學博士　デ、フオレスト

●預者言エレミヤ　山口金作

●歐洲文學の片影　文學士　川村金五郎

●詞　藻

●シナ、アンテア　佐藤清

●いたづら　木村久一

●村鍛冶　秋生

●聖書研究

●安息日の見解　海老名彈正

●東部講壇

●明道會講演會

●我信仰の經歴　近角常観氏

●生命の調和　姉崎博士

●近世の感化教育　留岡幸助氏

●開教五十年紀念會講演

●我國の倫理宗教道徳と基督教　新渡戸博士

●牧會事業　植村正久氏

●組合教會演說會

●現今[illegible]神界の缺陷　原田助氏

●時評　●彙報

新女界第七號(前號)目次

●泥棒根性の撲滅　海老名彈正

●周圍の人に親切なれ　安井哲子

●思　想

●晩近女學界の趨勢に就て　成女學校長　宮田脩

●物を遺る心得　法科大學助教授　法學士　吉野作造

●妾の過去　女子學院長　矢島揖子

●家　庭

●家庭教育觀察の一二　安井哲子

●子女教育に關する母の務　海老名みや子

●流行せる腦脊推炎の話　醫學士　金子魁一

●文　苑

●うたかたの記　松井とも子

●吾等は七人(新體詩)　秋畔生

●痲痺したる良心(同)　佐藤澱橋

●海より(短歌)　松川信男

●みちのくの旅(同)　野口精子

●詞　壇

●人間の教養　海老名彈正

●雜　録

●家庭學校を訪ふ　一記者

●骨相談片　最上宏

●編輯だより

資本金　十萬圓
積立金　七百九十餘萬圓
保險金　五千九百七十五萬圓
被保險人　十一萬四千餘人
代理店　七百餘個所

明治生命保險株式會社

東京市麴町區八重洲町一丁目

支店

大阪市　東區道修町四丁目
京都市　下京區四條通麩屋町
福岡市　博多中島町
長崎市　本興善町
名古屋市　中區榮町
岡山市　下ノ町
金澤市　南町
仙臺市　大町五丁目

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

京都御染物

本檳榔子黑
江戸褄模樣類
新柄小紋色々

東京小石川上富坂二三
コーツ邸內

京屋　佐藤松治郎

御一報次第直ちに參上可仕候

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

カメリヤ洗粉
◎容貌の美醜は化粧法の巧拙如何にあり
艶麗花に優り純潔雪よりも猶清く高雅優秀なる美貌は最新の化粧法により配劑せられたる高等美身料カメリヤ洗粉の常用によりて顕はる本品の小量を微温湯に溶解ト洗面を試みよ花香芬々として心身爽快を覺ゆるのみならず顔面潔白となりて艶を生じ年若き花の顔となるべし
定價
大瓶 壹個 廿五錢
小瓶 同 十五錢
大袋 同 五錢
小袋 同 三錢
罐入 同 十三錢
發賣元 ライオン歯磨
本舖 東京神田 小林富次郎

海軍藥劑大監 正五位 水野加以智
東京分析所技師藥劑師 松野惠藏
共同發明

リヨマチス 神經痛 又治新藥 ロイマン

三日分 三十錢
七日分 六十五錢
十四日分 一圓廿五錢
郵税各二錢

「ロイマン」の發明

リヨウマチス及び神經痛は共に難病中の難病にして急性のものは疼痛非常に烈しきか故に殆んと安眠することを得ず爲めに身體衰弱を來し又副作用として心臟病を起し遂に不治の境に至ることあり慢性のものは諸處の筋肉に疼痛を覺ゆ今日は肩の邊に痛みかあるかと思へは明日は足部に疼痛を覺ゆる等如何にも氣持ち惡しく動作は勿論精神上の作用迄も緩慢となり而して年々發作し其都度業務を休止せさるへからさる次第にして實に亡國の病と稱せらるゝもあなかち誣言に非らさるなり茲に於て予等は此病を全癒すへき適藥の發明に苦心したること多年一の理想的藥品に發見し「ロイマン」と名け種々の試驗に供しつゝありしに偶々明治四十年の暮々人某の妻君産後「リヨマチス」に罹り疼痛非常に甚敷安眠すること能はす平素にてさへ困難なる處をまして産後のことなれは身體日一日と衰弱するか故醫師より皮下注射を受くるときは藥効のある内はうと〳〵と眠りに就くと雖とも一時間ならすして復た舊の疼痛に復し殆んと堪へ難く日々斯くては益々不良の容態に赴くのみなりし、時に友人の懇請により試みに「ロイマン」三日分を服用せしめたるに日一日と疼痛減し尚は一週間にして拭ふか如く疼痛なくなり二週間にして全く常人と同一となりたり予等は尚は一層の自信を得益々研究と實驗を重ね益々其効驗の顯著なるを確めたる上今回愈々其筋の認可を受け本病を根治せしむべき適藥を完成せり「ロイマン」即ち是れなり

「ロイマン」の用法

「ロイマン」は一回一個ツヽ一日に三回食事の一時間後之を服用すべし

「ロイマン」は甚だしく濕氣を引き易き藥品なるが故に膠囊に入れ且つ瓶に入れて密栓しあり若し服用するとき濕氣を帶びたりとて元來斯る性質あるが故に少しも懸念なく安心して服用すべし「ロイマン」は一回一個を其儘口中に入れ水か微溫湯にて呑み下すか又は湯呑に微溫湯を入れ其中に「ロイマン」を入れ暫時攪拌し溶解せしめ服用しても宜し

發賣元 リントール本舗
東京小石川區指ヶ谷町百十五番地
快生堂藥局

會員募集

壹ヶ年學科修了

入會者日々數百人

女子手藝講義録

一日一刻も早く入會あれ

此の講義録は家庭の都合其の他の故障で通學の便のない方並に在學中の方の參考用として共立女子職業學校の各專門の方々が學校の科目に依り多年の實驗上から丁寧親切に素人にも解るやう說明してあります

優待會員の製作品は審査の上賞品を呈す

手藝は婦人一代の生命なり

入會の手續は至極手輕であります

如何に本講義録の豐富なるかを見よ

(課目)

裁縫科(和洋各種)　造花科(花卉果實各種)　手藝用圖畫科(各種)
編物科(各種)　袋物科各種　手藝教授法(各種)
組糸科(各種)　割烹科(和洋各種)　其他課外講義數種
刺繡科(各種)　細工物科(撮細工 綿細工 瓶細工 押繪 接物細工)

日本の婦人たる以上は何如なる事情ありとも此の有益なる講義録を家庭に備ふる必用を認めたりとの證言を得たり

發行　東京日本橋角

申込所　電話本局四一一四番　振替口座東京二三八番

大倉書店

入會規定

内容見本進呈

每月一回

第二號發行

五日發行

共立女子職業學校

櫻友會内

女子手藝普及會編

家庭の感化と基督教

安井哲

一、兒童に及ぼす家庭の感化

私は殆二十年間も教育の事業に關係致して居ますが、其間に種々雜多な家庭に育つた少年青年の女子を教へて見ました。そして其結果として兒童に及ぼす家庭の感化の實に大なる事を覺りました。

家庭は實に其内に生活する各個人に安全と幸福と進歩とを與ふる場處でありまして、延いては其個人の集つた國民、其家庭の集つた國家の、安全と幸福と進歩との根源となる者であります。家庭で惡い感化を受けた子供は、學校で之れを善良に教育する事が困難であるのは申すまでもなく、時としては學校の教訓が、子供の最樂しい場處と考へて居る家庭を、暗に攻擊する樣になつて、教育上甚面白からぬ結果を來たす事があります。曾て私は或外國で女子の教育に從事致して居

りました節、常に苦痛に感じましたのは、女子の生命とも申すべき節操を教へる事が出來なかつた事で御座います。何故なれば其國の風俗が之を不可能にさせたので、教育の結果が兒童をして不知不識父母に反情を抱かしめるといふ事は、實に悲しむべき事であるからであります。私は此際苦心して勉めて誠實なる心を養ひ、不知不識之れを貞操に導かうと致しました。併し其當時常に起つて居ました感想は、かゝる境遇に在る子供と、純潔な家庭に育ちつゝある他國の子供とが、各集つて互に造る未來の國家は、其強弱に如何なる差異があるであらうかと申す事で御座いました。

純潔な家庭は、結婚を以て神聖な者と考へた男女の結合に依つて成り立つ者で、其内には和氣あり、同情あり、禮儀ある美くしい空氣が充ちて居ます。かゝる男女間に生れて、かかる空氣を呼吸しつゝ育つ子供の將來は、如何に有望で御座いませうか、想像するに餘りがあります。彼ジョン、ハリファックスの妻が、其死に臨んで子供を誡めた言葉を御讀みになつた方は、其理想的の美くしい家庭に感動せざるを得ないでせう。今試に之れを摘んで見ますれば、

吾夫は眞に善良であり、眞に吾を愛し給ひしのみならず、實に吾をして善良なる者とならしめました。之れが即吾が夫を愛した所以であります。困難なる時には、彼は實に

吾が爲めには、力であり、希望であり、平和であり、慰めであり、助けでありました。又幸福なる場合には、彼は實に吾愛でありました。吾れの外に彼の善を盡く知る者なく彼の外に吾愛を知る人はありません。

吾子供等よ、決して汝等の父を忘れてはなりません。そして父の望み給ひし如くに行ひ、父の生活し給ひし通りに生活せねばなりません。汝等は能く父を愛し、且又兄弟互に愛さねばなりません。如何なる場合でも決して父に對して恥づべき行を爲してはなりません。」

と。嗚呼此家庭に存在して居る者は何でありませうか、愛と信仰とが即之れであります。かゝる父母を有つた子が、美くしい親の愛と、信用と、尊敬との情に包まれて受くる感化は如何でありませうか。最高の善にも達し得べき有望の幼兒を、かゝる境遇に置き能はぬ父母は實に不幸であります。そこでかく結婚を神聖にし、愛と信用と尊敬とを以て充たされたる家庭を作らしむる事は、實に基督教の根本的主義であります。

二、親が其子に對して感ずる新責任

子は親の分身でありますから、切つて切られぬ關係があり、親が吾身の如くに其の子を思ひ、之れを愛するのは、誠に美くしい自然の情であります、此親子間の愛情は、吾國には殊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に能く發達して居まして、義務とか責任とかのやかましい理窟を聽かないでも、吾等の心の根底に最深く宿つて居る情で、親は子を思ひ子は親を慕ひます。併しながら多くの人々の中には、時として子は親なる自分に屬する者である故、吾が思ふまゝに之れを取扱つても、他人の干涉を受ける筈はないと云はれる人があります。例へば自分の都合の爲めには、吾子には充分の敎育を與へぬとか、甚しきは親の爲めであるならば、假令人類としてあるまじき卑しい行爲を爲しても、人として最大切な節操を破らうとも、何の咎むる所はないと云ふ樣な勝手氣儘な理窟を云ふ人も、時にはないでも御座いません。折々新聞紙上に現はれる實子虐待事件の如きは即其一例で、如何に親でも其子の安全と幸福とを損害する事の惡いのは獨り道德上ばかりでなく、法律上からでも罰せらるゝのを見ても解りませう。

私は曾て英國で有名な敎育家、故ミス、ビールが父母懇話會で、子に對する親の責任を說かれた中に、「吾子を親切に敎育するのは、其子を授け給ひし神に對する義務である」と云はれた語を折々思ひ出し、自分が不德の身を以て生徒を敎導せねばならぬ場合には、此信念を呼び起こして、敎育事業の神聖と、之れに從事する者の責任の重大なる事とを感ずる事が往々御座います。父母が單に之れは吾子であると思ふのと、神より授かりたる預り者であると思ふのとは、吾子に對する觀念が非常に違ひます。例へば親が子供と雖も、一種の尊嚴と將來高尙なる發展を爲すべき資質とを有する者であると考へました時には、其子供を親自身の不注意から墮落させたり、又は親の不親切から發展の機會を與へなかつた場合には、神に對して親たるの責任を盡さなかつたといふ罪を自覺致しませう、

三、信仰と努力との生活

そこで親は自然子供の爲めに出來る丈善良な敎育をしやうと決心する樣になります。併親自身と雖も人類である以上は、欠點がないとも限らず、又吾子に敎ふる通りに自分が實行して見せる事の出來ぬ場合があります。そこで若しも其親が信者であるならば、如何なる障礙があつても、神に信賴して能く其敎に服從し、善行を爲すと云ふ信仰が出來、之れと同時に此世は德行を磨く奮鬪場で、多くの苦痛と困難とに戰ふと云ふ事を、即神の與へ給ふ一種の訓練で、之れに依つて己れを磨き、眞の慰藉を味ふ事が出來るのであると考へます、此主義で日夜努力奮勵する父母を見て居る子供は、自然に一種の信仰と努力の精神とを養はれるので御座います。

世には時とすると宗敎を自利的、機械的に信ずる人があり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます。かゝる人は假令宗教上の教義や儀式には精通して居ましても、實行が其智識に伴はず、口に說き、耳に聞く所の者と、實際行ふ所の者とは一致を欠く事があります。之れは實に信者自身の爲めにも、又之れに接する他人の爲めにも危險な事であります。凡世の中に最害を爲す人は、眞の惡人よりも却つて最神聖なる事を無意味に口にして、而も其行の非なる者であります。基督教は決して形式的機械的の敎ではありません、基督御自身が如何に實踐躬行的であられたか、又如何に其敎が實際的であられたかで解りませう。故に眞に基督敎を信ずる者は、常に正しき生活を爲さん事を渴望し、幾多の辛苦と戰ひ、無數の誘惑に打勝つ勇氣と努力とが常に心に準備されて居らねばなりません。然るに若少しの悲しみに打勝れぬ爲めに、信者にでもなつたならば安心を得るであらうかとか、自身は信者である故に、既に他人よりも幾層高い人格を有つて居るといふ樣な傲慢なる心を有つて居る者は、意氣既に衰へて、發展の止まつた人であつて、基督の主義たる益奮勵して人類として達し得べき高度の發展を爲さんと志す者とは、實に雲泥の差があるのであります。

四、愛の感化

かく基督敎は人生に欠くべからざる根本的の眞理を敎へて、理想の我に達し樣と向上發展せしむる者でありますが、之れと同時に自分の周圍にある人々に對して、無限の同情と愛とを注ぐ傾を與へる者であります。即前に申した如く淸き愛に依つて結ばれた親から生れて、兩親互に示す同情と、敬愛との淸く暖かな空氣に包まれた子供は、自然に親切でやさしい情を養はれますから、家庭內に在つて先父母を愛し、兄弟を愛し、延いては婢僕を愛し、終には外に發展して、親族朋友を初めとして、一面識もない他人にまでも常に親切を以て對するといふ傾を有する樣になるのであります。之れが所謂基督敎の博愛主義でありますが、其根本は何處から來たのでありますか。即父母を通して現はれた神の愛の感化に外ならぬので御座います。其故に博愛主義は個人としては近親を忘れ國民としては國家を輕んずるといふが如き思想は大なる誤りであります。

要するに兒童が善良に發展し得べき資質を受くる本源は父母であり、之れに良き習慣を與へる場處は、父母の住する家庭でありますから、父母の人格、家庭の良否は、未來多き兒童の幸福進步の上に大なる影響を與ふる事は、實に見易き道理であります。然るに近來は位置あり身分ある人々の子に、父母を辱しむる者が出來、親の力で之れを如何とも矯正する事が出來ずして、終には學校でもない、警察の力で消極的の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

訓練を受けねばならぬ様になる者の多いのは、何んと悲しい事ではありませんか。かくて親として子を敎ふるの力がなく、敎師も亦之れを導くの力に乏しく、外圍の惡風は有望の少年青年を驅つて、我儘勝手な無制裁なる行爲をさせつゝあります。其子供の爲めに、其親の爲めに、其社會の爲めに、又國家將來の繁榮の爲めに、實に泣かざるを得ません。何の制裁も權威も、服從も信賴も、努力も奮鬪も感じない子供は、實に不幸であります。折角育てた子供の爲めに樂しかるべき晩年を、却つて憂と悲みとの爲めに送らぬ様に、親は子供の爲めに家庭に在つて常に好模範を示し、善に對して熱心に行動する習慣を吾子と共に養はねばなりません、そして此向上的努力の精神を斷えず刺戟する者は實に信仰であります。

むかし聞きし獵場さめて捧ゆく
歌さもきけり雁なく聲を　（廸　治）

お笑ひ草

書生が靴下の破目から指を出してゐたのを見て、せい子が「これなーに」と問ふ、其後臺所で海苔卷をこしらへるのを傍に見てゐましたが、海苔が破れて飯粒が出ると「おすしから指が出た。」

○

三歳のいさを近所の兒と遊でゐましたが急に泣き出しました。後でどうして泣たのと尋ねると「どうもしなかつたけど面が泣きさうになつて泣てしまつたの」。

○

之もいさをの話です幼稚園に上げました處が、とかく出がけにむづかりますから、今におなじみが出來ると面白くなるから、お休せずにおいでと云つてすかしました。ある日突然兄にむかひ「兄様此頃はもう大學がおもしろくなつて?」とすましたいひ振一同大笑、（元頁よれ子）

思想

宗教的素養

宮川經輝

近頃予は路加傳に就て二つの發明をした。一は路加傳は女性には頗る適當なる讀物である事と、二は從來路加傳の初の三章は取り立てゝ云ふ程の價値なきものとして心中私かに之を捨てゝ顧みなかつたが、近來熟讀の結果此裡に金銀珠玉も及ばざる尊い價値を發見した事である。世間には聖書の內容に對して暴評を加へて恐れない人々を見受けるが、此事は最も愼重な態度を以て取扱はねばならぬ事を今更痛切に感じた次第である。

路加傳の初には崇高熱烈なる一個の人格を描寫してある。眞心より流露する言語、眞摯素直なる態度、而して實に其曲く可らざる熱衷は當時の人々をして是れ出現を約束せられたるキリストにあらずやとさへ思はしめたのである。誰れあらう是が實にヨハネ其人であつた。而してヨハネはヘロデ王の家庭を評したといふ理由の下に縛せられて獄に投せられた、闇黒寂寥の境裡彼は徐に救世主キリストを想ふの情に堪へず、乃ち使者を派してキリストを訪はしめた。使者キリストに至つて歸り去れる後キリスト、ヨハネの人物を評隲して曰く

何を見んとて野に出てしや、風に動さるゝ葦なるか、然らば爾曹なにを見んとて出しや、美服を衣たる人なるか文繡を衣て奢れる者は王の宮に在、然らは何を見んとて出しや、豫言者なるか然り吾れ爾曹に告ん是れ豫言者よりも卓越たる者なり、それ爾に先ちて道を備ふる我使者を爾の前に遣んと錄されたるは即ち此なり、我なんぢらに告ん婦の生る者のうち未だバプテスマのヨハネより大なる豫言者はなしされど神の國の至微者も彼よりは大なる也。

人間の歷史ありて以來斯くの如き賞讚を博し得たるは未だ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

嘗て世にあらじ。而も聰明限りなき頭腦と炬の如き洞察的眼孔を有し給ふキリストが、斯く賞讃の辭を彼が頭上に灑いで惜み給はなかつたのを見ると、如何にヨハネが偉大なる人格者であつたかといふ事が判明るのである。然らば吾人は勢ひ

如何にして如上の人格者が生れたか

の疑問に逢着せざるを得ない此問題を解くには彼が人となつた家庭を見なければならぬ。聖書によればヨハネの父はアビヤの國に屬する祭司だとある。母エリザベツはアロンの裔である、即ち幾代か繼き來れる舊家で立派なる家柄の出であるのが分る。父は宗教に身を捧げて誡律を嚴守したるの人、母は門閥の家柄で教育された人である。此二人が經營する家庭の中には信仰あり禮義あり正義あり仁愛あり實に潔く美はしき空氣が流れつゝあつたと云ふ事は正當に想像せらるゝ處である。ヨハネは實に斯の如き家庭で育て上げられたのである。

予は先達渡米して種々感も多かつた事であるが、路上を通行する人間の風彩と云ひ容子と云ひ悉く忌な不愉快な感じを起させたが、轉じて一度足を教會若しくは家庭に入れるならば、隨處に尊敬す可き紳士淑女に遭ふ事が出來た。之は即ちアングロサクソン人種が移住し來つて清教徒的の信仰と趣味が代々彼等の家庭に流れておるからであると聞いて成程と首肯れた事である。只に家庭に於ける信仰と趣味ばかりでは甚だ力が弱い、之には家庭を鍛錬し育成する代の力が必要である。路加傳第一章五節を無雜作の間に讀過すれば何等の意味もないやうであるが、仔細に這間の事狀を考へて見ると其裡に絶大の意味が發見せられるのである。ヨハネは偶然にして世に現はれたのではない、幾代かの間を通して生々發育し來つた力の權化である。成上者と數代の士族との間に於て見る事を得る差違は最もよく代の力を證明する。成上者は自己の富めるにまかせて人目を驚かす豪奢も極めようし、種々の奇拔なる事業も計劃しようが、禮儀作法秩序に於て、否又根本の人格に於ては斷じて數代の士族に及ばないのである。昔は一代士族にては刀が腰に似付ぬと云つたものであるが實に穿つた言葉である。基督教信者と雖も尚ほ同じ事である、此點から云ふならば日本は遙かに〳〵遠い。信者だと云つて毎日曜日に教會に詣づる人々でも、まさかの時には南無阿彌陀佛が唱へられそうである、アーメンなる言葉が口から出るには子の代孫の代に至らなければならない。吾人は祖先に基督教信者を有してゐない、一代信者である、刀が腰に似付かぬ方である、一代信者と云はれるのは實に悲しい事であるが仕方がない、けれども吾人は子孫に善良なる基督教信者の祖先として殘る榮譽を荷うておるものである。吾等が實に祖先である。

此祖先より子々孫々に於て立派なる基督教信者が出來上るのである。先日予の教會で森といふ人が死んだ、原田君が弔詞を讀まれたが其中に斯う云ふ事があつた。此森君は生前に於て如何なる善事をなしたかどうかは予は知らないが今日其子に至るまで四代の基督教信者であつたといふ事は誠に美はしい事と云はざるを得ないと云はれた。實に左樣である、想ひ來れば吾人の使命と責任は重且つ大である。子々孫々より偉大なる信者を出さんが爲めに吾人は一向に精進して宗教的素養の充實を計らなければならないない。而して茲に就つてヨハネの

兩親の宗教的素養

を検覈してみる必要がある。聖書によれば兩親は「共に神の

前にて義人なり凡て主の誡命と禮儀を虧なく行へり」とある。之によりて兩親の人格は最も明亮に想見する事が出來る。想ふに彼等兩人は正しき信心家であつた許りでなく他人に對して誠に義理堅い同情に富んだ實踐躬行的の人であつたに相違ない。從つて萬事規律正しく夫婦の別長幼の序の禮義もよく一家の裡實に美しき空氣に充ちておつたのであろう。子供は親の云ふ事は聞ないが爲す事はよく模倣する者である。斯の如き家庭に育つたヨハネが如何して善良なる感化を受けずにおられよう、此點は吾人のよく注意せざる可らざる處である。

尙聖書を讀んで十三節に至れば、「天使かれに曰けるはザカリヤよ懼るゝ勿れ爾の祈禱すでに聞たまへり爾の妻エリサ

ベツ男子を生ん其名をヨハネと名くべし」とある、之を以て見れば兩親は二人の間に子なきを患へて子を得ん事を神に祈つたものと見える。古今申し子と稱する者の中に偉人が多いやうである。孔子、大閤、楠正成など皆神よりの申し子だと傳へられておる。事實の如何を問ふ必要はない、只兩親が如何に清き信頼を以て神に祈禱を捧げたか、從つて又如何に謹深く其身を持したかを見ればそれで充分である。祈禱の精神程尊く美はしく清いものはない、此精神が胎內の兒童に及ぼす影響程善良なものはない。已に神よりの申し子であるといふ觀念が始終兩親の胸から去らないから、生後の教育にも出來るだけの注意を拂ふは當然の理である、此裡から偉人が生れ出ずして何處から生れよう、果然かくして豫言者ヨハネは現はれたのである。

更に十五節には「それ此子主の前に大ならむ又葡萄酒と濃酒とを飮まじ」とある。ヨハネは酒は飮まなかつたのである。之れより推して其兩親も酒は用ゐなかつた人々である事が想はれる。今更飮酒の害を說く必要もないが、若し此世から酒をとり去つたら失敗と墮落と不健康の殆んど全部は跡を絕つに至るであろう。家庭內に酒を用ゐると用ゐざるとは甚だ些細な事柄のやうに思はれるけれど、酒を用ゐない爲に精神の上にも態度の上にも謹愼の德は充分に守らるる事である。酒を飮む父が子に禁酒を強ゐん爲に、子供は飮んでならぬといふが如き苦しく卑怯なる辯解を要するやうになつて來るのである。

進んで三十九節以下に至れば母なるエサザベツと姪なるマリヤとの間に交換されたる美しき會話の一節がある、エリザベツ、「主の言を信せし者は福なり蓋主の語りたまひし如く必ずなるべければなり」と讃ずればマリヤは之に合して云ふ、「我心主を崇め吾靈はわが救主なる神を喜ぶ是その使女の卑微をも眷顧たまふが故なり」と、嗚呼何たる敬虔なる談話ぞ。天を仰ぎ神の德を讃美し喜び興ずる樣さながら眼前に見ゐる心地がせらるる。此記事によりて彼等の親戚及知己が如何なる人物なるかも知る事が出來又交友の間に交らるゝ日常の談話も想像する事が出來る。想ふに家庭の空氣を清からしむるには家庭に出入する人物を撰擇する必要がある。藝者や幇間的人物が出入する家庭は一般に罪惡が潛んでおると斷じても過言でない。つまらぬ人間の言行のみを見聞して生長して來る子供の前途は必ずや闇憺なる運命の手を免るゝ事は出來ない。之に反して相集れば讃美を歌ひ祈禱を共にし眞面目なる會話を共にする習慣を造つたなら其家庭は自然に善良ならざるを得ない。予は四十二三歲の頃英國に遊び一代の聖なる人々に會して一時間或は半時間の談話を共にした印象と感化

が九年の歳月を經過したる今日に於ても明亮に感ぜられるのである。頭腦の固定した大人でも實に斯の如きものがある。況んや幼兒に及す影響の至大なる事は疑を容れない。予は一般の家庭に對して次の事をすゝめたいと思ふ。即ち有德の士があるならば之を自己の家庭に招待して迫て半時間でも互に接觸して其談話を聞く事である。若し招待する事が出來なくば子を連れて訪ねて行つてもよい事である。如何なる方法にもせよ高潔なる人物によりて自己の家庭の改良を計る事が最もよき方法である。由來日本の家庭の欠點は朋友を撰ばぬ處にある。父母たる人は協力して此弊害を防ぐ可きである。

最後に使命と準備に就て一言しようと思ふ。世間では自分の子の教育に就て斯樣な事を云ふ人がある。宅の子も普通教育は受させましたから、それから先は何とかなりませうと。何たる不謹愼不確實な言葉であろう。自分の子の使命も知らず何等の準備もなさしめないとは誠に情ない次第である。長男は大學の教授か教會の牧師にしなければ神恩に報ずる事が出來ぬといふ考から、スコツトランドの田舍の百姓は二男三男が勞働に服して長男を學校にやつて勉强させるといふ話を聞いた。今日もまだ此習慣が殘ておるかどうかは知らないが、其眞面目な精神は實に敬服に價するものがある。

ヨハネの使命は「父の心に子を慈はせ逆れる者を義人の智に歸せ主の爲に新なる民を備ん」が爲めであつた。而して眞摯なる父母の生活といひ崇神の行爲といひ、克己の精神の强くして酒を用ゐざりし事といひ悉く使命完成に對する遺憾なき準備と見る事が出來る。而もこの準備の中最も興味ある事は「斯て嬰兒は漸成長し精神ます〳〵强健にしてイスラエルに顯るゝの日まで野に居」つた事である。想ふに都會の地は子女を育つる場處でない。天然自然の裡にあつて其寂寞を味ひ其活動をうかゞひ自然の背後に輝ける父の笑顏を見る事を得るは野におる兒の特權である。エスでさへ三十の年迄野に在つて修養されたのである。自然は健康なる精神と身體とを與へる。ヨハネが大勇猛心を振り起しヨルダン河の邊に來りて大説教をなす事を得たのは主に野にあつて準備した結果である。

予は以上に於てヨハネの家庭を通して宗教的素要の甚だ重要なる事を見得たと信ずる、宗教的素要の有無は次代の國民に影響して來る。吾々が果して善良なる祖先になる事が出來たなら、子々孫々に於て必ずや偉大なる立派なる宗教信者を起す事が出來ると信ずる。家庭に於て力強きものは婦人である。特に信者たる婦人は近衞兵の如く一國の撰良であるから此責任を切實に自覺して善良な祖先たる事を心がく可きである。

(組合教會婦人大會席上講演大要文責在記者)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人發展の新方面

島貫兵太夫

本月三日を以て設立一週年紀念會を開かんとする力行女學校長島貫兵太夫氏を小石川駕籠町の力行會に訪うて同校の現狀を聞き將來の抱負を叩く。氏莞爾として記者に語る、姿態頗る朴素而も其中没鋭の氣横溢せるものあるを感ず。

窮迫せる現代婦人の救濟

生活難が激甚なる勢力を以て男子を襲うて來るに至つてから、自然の勢として女子も單獨にて生活せねばならぬといふ狀態になつて來た。加ふるに國民の經濟上の貧弱はかよわき婦女子をして益々悽慘たる境遇におとしいれて仕舞ふ。斯る女子の生活の資料を與ふる目的の爲めに幾多の實業學校は設立せられ、造花刺繡編物裁縫料理等女子に適當なる仕事は悉く授けられて殘余なしと云ふ事が出來る程である。然れども此等の仕事を習得した女子が此職業によりて果して單獨に生活して行けるだけの報酬を得る事が出來るだろうか、決して此によりて滿足な生活は出來得ないのである。事實自活しておる人があつたにしても、之はホンの生きてゐられるといふ狀態の生活に過ぎないのである。其職業と自己の將來とを靜かに考へて見たなら、運命の暗慘なるに失望せざるを得ないのであろう。又比較的優秀な生活狀態にある女子が、女學校或は師範學校卒業後直ちに學士に嫁し得るなどは異數の幸福であると思はれておるにも係はらず、結婚後の生活のみぢめさに青春の夢は早くも破られ、内狀の苦痛に悲觀的の人となつて仕舞のが多いのである。此は決して根據ない話でない。予はかゝる境遇にあつて轉た世事の辛慘を嘆きつゝある婦人を幾人となく知つておる。予は又地方村落の經濟上に困難を極めつゝある事を目の當り見て知つておる。如何なる地方に行ても膨脹發展しつゝある村落を見た事がない、一家は沒落し家族は離散して亡國の現狀を呈せざるものは尠ない。此等地方村落の青年子女は何れに適歸すべきかを知らないで空しく廣き世に彷徨しておるのである。予は凡てかゝる現代の婦人を想ふ毎に衷心よりの苦痛を感じ、如何にしてか之を救濟しなければならぬと思はざるを得ないのである。

米國移住民

かゝる國内の趨勢から眼を放つて對岸を見ると、幾多の有爲多望の青年男子は稜々の志を抱いて海外に發展して萬國如何なる地にも殆んど至らざるなき現狀を呈しておる。實に彼等の前途を思ふと洋々たる希望が湧いて來るのである。

予は十三年以前から此移民問題に注視しておつた。而して我日本人が最も多く移住せる米國には實に十萬の青年男子が日々に活動して祖國の爲めに氣を吐いておる。彼等の年々祖國に送り越す金額は十五萬圓に上つておる。然れども悲しい事には彼等の多數は內助者たり慰籍者たり奬勵者たる婦人を有しない。日常生活に規律を與へ休息を與ふる家庭を有しないのである。夫れ故彼等の多數は勞働者氣質なる一種嫌惡すべき習慣に捕はれて、正しき生活より遠かりて酒色賭博に耽溺して、折角粒々辛苦によりて獲たる金錢を浪費して仕舞ふ樣になるのである。若し彼等にして墮落せる生活より復活して高潔なる生活を送るに至らば、祖國に送り得る金額は優に三十萬圓に及び得るであらふ。斯くの如にして現金を日本に吸收する事を得て、而も年々の增率を計算したならば日米の經濟上の軒輊は、十年の後は現在よりも必ず良好なる比例を示すに相違ないと信ずるのである。若し果して斯くの如くなり得るとせば鵬翼を駆つて萬里の程にある彼等青年男子の功や實に偉也と言はざるを得ない。而も事實は着々として彼等の成功を示しておるではないか。而して彼等に永住的精神を確固ならしめ、和氣靄々たる家庭の裡に於て休息と慰籍と激勵とを與ふる者は實に祖國の女子を措いて他に其人がないのである。十萬の男子に對して僅かに六千の婦人を數ふるのみである。バンクーバーよりロースアンゼルの間女子の隻影を認めないのを見ても、青年男子が如何に落莫たる生活を送つてゐるか、想像されるではないか。

力行的女子

星にあこがれ菫に泣きて神經衰弱を誇りとする女性は予輩の相手とする處でない。苟も大和民族發展の根據を作り祖國の繁榮を確立せんとする女子は、宜しく眼界を廣くし抱負を大にして新らなる方面を開拓せねばならぬ。祖國の青年を助けて相共に勞働に從事するのも實に愉快なる生活である。徒らに國內にありて生活難を嘆ち獨立難を訴へて苦しんでおる事はない。而も足一度米國に入らば決して職業難はない。力行會々員は米國の隨處に散在しておつて懇切に職業を周旋してくれる筈になつておる。

力行女學校は斯の如き婦人を養成する爲めに設立した學校である、現在は八十七名の生徒を收容して基督教によりて精神の修養に勉めておる。一日に二時間は必ず禮拜說敎をして修養の資としておる。三百六十五日如何なる日と雖も之れだけはやめない。如何なる難局に當つてもどうにかかうにか之を處理し得るは只確固不拔の精神による外他に道がないからである。其他西洋洗濯、同料理、ミシン、タイプライター、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

硝子ふき等あらゆる仕事を教ねる。勿論之は海外にて職業を得る準備である。力行女學校の生徒は悉く將來の事實問題に苦心しておる人々であるから、所謂星菫黨の女子から見ると蠻的で艶消である。けれども之が爲めに却つて現在に間違を生ずるが如き女子は一人もゐない。昨年の十一月以來十名の女子を妻として米國に送つた。已に結婚したるもの、今將にせんとしつゝある者等を合せて九十八名を算してゐる。

日米問題の解決

日米問題は識者の常に注意を怠らない處である。政治上に之を解決する方法は種々ある事であろふが、現在の處排日事件は如何ともする事が出來ぬ。日本勞働者の低廉なる賃銀を以てし、或は勞働者の誠意ある態度を以てし、又如何なる正當の理由ありとするも、日本人が米國に於て市民權を有せざる限は自由に排斥せられるのである。而して其市民權なる者は之を日本人に與へずと明記せられず、又新歸化法にもないけれども事實は日本人には與へない事に決定しておる、然らば即ち日本人は永久に市民權を獲得する事が出來ず、普通撰擧に投票する事が出來ないかといふに、只此處に一路がある。即ち米國に於て生まれたる兒童に限り市民權を得ることである。米國生れの日本人が年次を追ふに從つて多數になり、經濟力の上にも發展し來らば必ず撰擧を動かし得るに至るであろう。此の策は前途甚だ遼遠であるけれども然し決して失望的計劃ではないと信ずる、即ち力行女學校の設立は事實の上に日米問題を解決する鑰である。

予は日本人を容れるに已に狹少を感じつゝある日本より、健全なる進取的なる女子を海外にある我同胞にすゝめて、我大和民族の爲め堅固なる發展地を作りたいと思ふ。

（文責在記者）

大將此女房を呼び出でゝ、昔今の物語どもし給ひて後、小夜もやう／＼更け行けば、舊き都の荒れゆくを、今樣にこそうたはれけれ

舊きみやこを來て見れば
淺茅が原とぞあれにける
月のひかりはくまなくて
秋風のみぞ身にはしむ

と押し返し／＼、三度うたひすまされたりければ、大宮を初め奉りて、御所中の女房たち、皆袖をぞぬらされける。

（平家物語）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭

加納家家人の心得

安井哲

加納子爵が家庭及社會の教育に心を用ひらるゝことは、人々の能く知る所で、家庭教育の爲めに種々有益なる實驗をせらるゝ事は、我々の屢承る所で御座います。然るに此度「同家家人の心得」なる小冊子を請うて拝讀致しました處が、家人を教訓する事の實に叮嚀親切であるのに感服致しましたので、今回御許を得て其一部を此雑誌に載せる事と致しました。

家人の主眼

奉公と云へば俗に云ふ奉公人根生とて、人の痛さは百年でも耐へるとの不人情なる形容詞の如く、自身の外主家の用向きは成る丈け働かぬが德用だなど思ふ者もあるべけれど、开は鼻先き思案にして大なる心得違なり。元來家人となる人の境遇は、其目的二種あり。其一は家庭見習の爲めに、其二は或る事情の爲めに奉公するの余儀なきに至りたる爲めなること是なり。家事修習の爲めとあれば、稽古の爲めに立働き、又は料理裁縫等の講習に努むるは云ふ迄もなし。又一時他家に傭はるゝの余儀なき事情ある人なれば、他年一旦再び良家に嫁し、又は家庭を作る下稽古として、坐席の掃除や煙草盆に使ふ佐倉炭の埋火の保存方法や、食事時間には鐵瓶の湯が沸騰して居るかどうかと云ふ様な細微の注意迄も、他年世帯を持つ時の經驗とならぬものは一つもない。されば人に使はれるのだと思はゝ腹の立つこともあらんと雖も、世帯學校の塾生となつたのだと覺悟して、自己の爲めに練習する日々の奉公は實に自身の

利益幸福を殖やす資本なる事を忘る可からず。

朋輩の間柄

雇主と雇人とは假りにも主従親子の情義あるが故に、家人朋輩の間柄は兄弟姉妹の親愛あるべきは勿論、相互の生國が東西南北雲山相隔てゝ、見ず識らずの赤の他人が偶然にも、寢食を共にし、苦樂を同うせる不可思議の結縁を成せしものなれば、親切誠意を以て相交り、且左に掲ぐる要旨を守るべし。

（一）自己の手明きの時は朋輩の忙しき勤務を輔くべし。

（二）朋輩の手落ちとなり、又は不爲となると思ふことは、懇切に注意を與ふべし。

（三）自己の過失は速に家長に申出朋輩の迷惑とならざる様心掛くべし。

以上の三章を讀まれた方は、如何に雇人に對する同情の深く、彼等をして自身を輕蔑せず、其取る所の職業を賤まず、修養修學の目的を以て、他人の家事に従事するといふ、所謂仕事其者を大切に考へ、能く誠實に其職務を盡し、主人朋

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

友に對する正しき心の持方を示されたかといふ事が解りませう。かゝる心の態度に於て、他人を使ひ、又他人に使はるゝといふ事は、既に其間に暖かい同情と好意との生じて居る者で、召使は主人の威を恐るゝ爲めでなく、又給料を得るが爲めでなく、美しい主從の關係から忠實に其職を勵む樣になりませう。

召使を使ふといふのは、單に金錢を出して他人の勞力を買ふといふ意味でなく能く之れを敎育して、直接には　召使將來の幸福の爲め、延いては吾家の便利幸福を謀る爲めでなければなりません。普通の人は吾家吾物に對する觀念と、他人の物他人の家に對する觀念とは自然に違ひまして、自々の物ならば儉約し、自分の家ならば戸締り、火の元等を能く注意致しましても、他人の物他人の家に對しては、無責任になり易い者であります。其故細かい處にまでも能く注意して、初めから爲すべき事は正しく爲すといふ習慣を養ふ事が必要であります。之れが以下各章に家人の心得として示された者でありますが、今其中の一章丈を載せませう。

起床就寝

起床の刻限は學校に行く家族が食事の準備を爲すに差支なき樣起き出づべし。

日の長短に依り起床時間に伸縮あるべければ、季節々々の起床刻限は毎夜怠らず目覺時計を裝置して、時を誤らざる樣注意するを要す。

毎朝起床時間には起き出で顏を洗ひ、口を漱め、髮を梳り、朋輩互に「お早う」と挨拶して其日の無事を祝し、家族に對しては日本席なれば正坐して、西洋間なれば直立して「御機嫌能う」と述べて敬禮すべし。就寢の際も亦同一の禮を行ふべし。

炊事受持家人の就寢は厨の用事已に片付き、翌朝の準備了りたる上は、隨意に入床して翌朝の炊事時間を誤るなきを要す。

其の他の家人は家族の就寢と同時に茶室、客室、玄關、西洋間等の障子襖の建て付け、戸締、サル、締張棒等確實に施しあるや否や、電燈瓦斯燈の消火機が適當に取扱はれ居るや否や、火消壺及火鉢、炬燵等に火氣の存し居ることなきや否やを巡檢し、其異狀なきを見認むれば直ちに入床し、互に閑言語を交へて夜更かしを爲す可らす。（未完）

健康は天の特賜

元良よね子

心に思ふより口に表るで、つひ私が家の者などに度々申すことですが、人は何なりと爲すべき仕事があつて、さうして其に堪へるだけの健康を持て居りますなら、此程幸福なことは無いと私は思ひます。用事が澤山積み重つてゐる上に、又彼方からも此方からも用事が出て來ますと、何から手をつけて可いか分らなくなつて、早く何もかも片づけてしまつて、氣を樂に持ちたいなどと思ふ事も時々ありますが、あんまり用事のないのもつまらなくまた退屈で辛いものださうです。又用事は幾らでもありながら身體が弱いために思ふやうに働けないのもさぞつらい事だらうと思ひます。

私が此間ちよつと風をひいて二日程寢ましたが、最初は少し頭痛がして咽喉も

少々痛いやうでしたから、速ぐ直すに若くはなしだと思つて、好きな入浴も止めて宵から床に就きました。終夜よく眠りましたが翌朝は頭痛が烈しくてとても起きられません。頭を何處へか持てゆかれるかと思はれました。とう／＼終日絶食で平臥てゐました。其翌日は頭痛の方は少しは輕くなりましたが體中が打たれたやうで、口をきくのも可厭な程疲れたやうで、何とも言へない氣持でした。けれども其日は追々と氣分も快くなつて來、食慾も出て來まして次の日はどうかかうか起きられました。私は其間つく／″＼思ひました。健康が何よりの賜である、いくら美麗な衣服が澤山あつても病氣で寢てゐては着る事も出來ない、何處に如何な面白い事があつても見にゆく事も出來ない、何が無くとも身體さへ健全であつたら決して不足は言ひますまい、健康が何よりの賜、どうかこの賜を害はないやうに氣をつけませう。又思ひました。病身の方はお氣の毒だ、第一身體の痛み苦みを他人に分擔して貰ふ事は出來ない、みんな自分一人で負はなければならぬ、又自分の用事を自分で達すことの出來ないのはどんなに不自由でせう。此が人でも澤山使ておいでになる方は別ですが、我々のやうに婢の一人か半分使てゐる身分で、自分が寢てゐて他人の忙いのを見てゐたり、其上自分のために用事を爲て貰ふといふことは中々身體の苦痛にも劣らぬ苦痛を心に感じます。私は此度の風邪によつてます／＼健康のありがた味を感じました。又一方には病人に對する同情が出來ました。成るべくは何處にも病人のないやうに望みますが、もし知人間に病人のある時は出來得るだけ親切に爲たいといふ念が深くなりました。

先天的弱い方は誠に氣の毒です。さういふ方は精々療養なさつて健康になるやうにお勉めなさる事が無論大切です。幸ひ健全に生れついた方は天の特惠と思うて感謝せねばなりません。さうして其健全な體を不注意にして害ふやうなことがあれば、罪と思うてよく大切に養ひ護らねばなりません。よく年の少い者にあり勝な胃病とかいふ病氣は、あんまり口をかはいがり過ぎると直に起るさうですから氣をつけて下さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い。それから又勉強盛りの學生方は勉強々々というて、餘り勉強が過ぎて夜更しなどが續くと神經衰弱とかいふ當時ハイカラな病氣になり付かれる虞があります。いづれも昂じると恐るべき病氣ですから、未成に防ぐことが大切だと思ひます。食事も適度運動も適度睡眠も適度勉強も適度、それで病氣になつたらそれは致し方がありません、其時はそれ〲手當をするより外はありません。まづ小生の攝養が大事です。長年螢雪の苦とかを積だ甲斐あつて、いよ〱學校も優等で卒業、やれうれしやと思ふ時身體が弱くては、切角磨き上げた智慧も才能も世の中に充分活用させる事は六ケしいです。さうなると自身の損は無論、社會の損です。それですから體育が大切です、其體育とは學校で體操をするばかりが體育ではありません。平生よく〱攝養して健康を保つといふ事が肝要です。前途多望の青年方は男女を問はず殊にこの事に注意なさつて下さい。

しかしこの大切な身體の健全よりも一層大切なものは、私が申さずとも知れた事ですが精神の健全といふ事です。若し一朝精神が病氣に罹りますなら萬事がおしまいだと思ひます、私が或る婦人からかういふ述懐を聞きました。「私は今の身分で物質上の不足は殆どありませんけれども、主人があらぬ方に心を向けてゐますので心の快樂は全く無くなりました。却て夫婦共かせぎの昔時がなつかしい」と涙ながらに語りました。私は同情に堪へませんでした。全く人の快不快、幸不幸は富や地位ばかりに依て得られるものではなく、人の心によるものだと思ひます。其日暮しの裏店住ひにも和氣丸ち滿ちた春のやうなたのしい家庭がないとも限りません。どうか若い方が一時榮華の夢に迷うて後に悲境に陷るやうなことの無いやうに注意に注意をなされるやうにと祈ります。

子女教育に對する母の務　二

海老名みや子

出産前の心得

段々月は重り、身は重くなりますにつれ何とはなく心せわしくなるものであります。日常生活は何の變化なく續けて行くのでありますが、それ以上心を配ばり準備をして置かなければならない事がいろ〱あります。先づ産婆の撰定は第一にしなければなりませぬ。出産時には誰より産婆がたよりでありまして、其術の巧拙や其人物の如何は、産婦に大關係があります。殆ど産婦の一命は産婆の手中に一任されてあると申てもよいと思ひます。私の知人で八人目のお産で亡くなつた人がありますが、私は其方に接して直に行て見ますと、ドウでしやう、生れた赤ん坊は初聲高くないて居りまして、他の七人の子供等は途方にくれて居るではありませんか。前夜まで健やかであつたこの子等の母は夢の樣にして逝いてしまひました。これは全く産婆の手落ちであります。産は平産でありましたが、産後出血を致しましてそを止る方法を産婆が誤つたからです。殘念とも何とも申樣はありませぬ。かゝる例は少いとしても産婆が消毒其他の手おちの爲に産婦にも嬰兒にも、恐るべき黴毒を及ぼす事があるさうです。恐しい事ではありませんか。

それで産婆撰定はよほど注意をしなければなりませぬ。第一其術に熟練なる事、第二信任すべき人物なる事、第三あまりに其住〃の隔らない事、この三ケ條は是非とも備はらなければいけないと思ひます。初妊の時は五ヶ月位には産婆を頼んでおく方がよいと思ひます。折々診察してもらつて胎兒の發育の模樣や位置の工合を見て注意をしてもらひますと、誠に安心の樣に思ひます。それで産婆も産前に、折々其家に出入して、妊婦や家人と心安くなつて居ますと、互に知らずにおご〱しあつて居るよりどんなに快よいか知れませぬ。用意萬端産婆の指圖を受けまして、心おきなく産婆が働らける樣に仕向けますと、産婆も其家相當に手配をしてくれるものであります。かくして産婆の撰定が濟んで一通り準備が整ひますと一安心。もう七月にもなりますと、生れて來る嬰兒の衣服や寢具や襁褓の仕度をしなければなりませぬ。度重りては左ほどでもありませぬが、初めての時、赤や白や黄色の布を以て、可愛い初着を縫ふ時の心は生涯忘れられない深い〱印象を與へるものであります。嬉しい樣な恥かしい樣なあどけない親心がほのかに芽ぐみ初めて生れる兒は男であらうか女であらうか。さつぱりと男らしいのをこしらへて置かうか。それともひよつと女が産れた時には、笑はれさうだ、マア赤いのも一つ位はこしらへて見ると、又それは〱可愛くて女がほしい樣な氣もする。可愛い襦袢が出來て、小サナふとんが出來る、すつかり用意をして、御本人のお出ましをまつのであります。かゝる間に親心が日一日と熟して來ます胎兒の運動が盛んになつて、時々驚かされる事があります。これまで自身の擧動に何の注意も拂はなかつたものが、今は其一擧手一投足悉く胎兒の安否を慮る樣になります。夜寢るにもかくしては胎兒に害を與へはしまいかと先づ自身の寢ごゝちよりも胎兒をかばつてはごくんて行く其殊勝な心がけ、誰教へねど自ら湧いて來るとは誠に美妙なる神わざと申外はありませぬ。これまでは食ふにも寢るにも起るにも、自己本位であつたものがいつの間にかまだ見もしない胎兒本位となつて仕まつて居りますこんな風に外部の用意が整ふと共に内部の親心も自然〱に備はつて參るのであります。

　嬰兒の爲の準備が出來ましたらば、次は一家萬般の整理を爲しておく事が必要であります。昔時の人は出産は片足を棺の中へ入れる樣なものだと申ましたが、これは間違ひで決してそんなものではありませぬ。産科術も産婆術も今日の樣に進歩した世の中に、なんでお産で死ぬ樣な事がありましやう。前申た樣な不注意な事さへなければ萬々間違はない事であります。萬一お産で死ぬ樣な事があつたらばなぞと考へる事は、産婦にとつては何よりいけない事であります。それは人間ですもの太平無事の今此時にもどんな變事がないともかぎりませぬ。私共の生命は全く神樣にお任せしてこそはじめて太平無事であります。で、そんな心配は別問題として出産後二三ヶ月は平常の通り充分に家庭其他の爲働く事は出來ないと心得ねばなりませぬ。それで其間の事、心を勞さない樣出來る丈の事をしておく事は必要だと思ひます。衣類の如き主人のもの親のもの子供があらば子供のもの一二ケ月は針を持たずにすむ樣にしておき度ものです。私の經驗では出産をした

年が一番冬着の用意等よく整頓して居る様に思ひます。ナゼなれば出産前三四ケ月は據ない事でなければ外出を致しませんで重に家に居る事が多うございますから此間にさつさと仕事をしますと案外澤山出來るものです。はぎ〳〵の子供の胴着だとかふとんだとか、いつこんなものをこしらへたかとあとで考へて見ますといつも出産前の仕事です。こんな風に、思ひの外仕事はよく出來るものですから、産褥中は勿論あと一二ケ月はあれもこれもと心を勞し身を骨折らす事のない樣にしておく事は、どの位産後の肥立を助けるか知れませぬ。産前はつとめて働き産後はつとめて休むといふ事は二つの大事な心得だと思ひます。かくして順々に内外の用意が整つて來て、何時新來の可愛いお客様がおいでになつてもよいといふ段になると、誠に樂しみで毎月其月を待ち暮すのであります。そして此待暮す間の最注意すべき事は、身體にも精神にも些の滯りがない樣にする事であります。胎兒發育の爲腹部の内臓は壓迫せられまして、汚物の排泄不便になりますから、此點は充分氣をつけなければなりませぬ。

妊娠末期になつて案外こゝろよく身輕に感せられますは、毎日〳〵この事に注意する事に大關係がある樣に思ひます。精神も其通りで何か苦勞があるなら出産前其をとりさらなければいけませぬ。不幸にして其苦勞の種子がとりさり難いものであるならば、益々兼ての信仰をすゝめ、一切萬事天父の大みこゝろにお任せ申して、こゝろのどかにある樣こゝろがけることが肝腎です。

治療し得可き不具

金子魁一

猟師や漁夫の樣に毎日殺生を業として居る者の子に不具者が多い。所謂親の因果が子に報へられて來る爲めであるといふ迷信は昔しから何れの國にも行はれておつて、東西其軌を一にして居る所である。我國では佛敎の影響を受けてから一層こんな事が信せらるゝ様になつた。私も幼少の時の記臆をたどりて行くと、諸處の縁日で興行師の説明を聞きながら種々の不具者を見た事を思出すのである。彼等は曰ふ。章魚を殺した漁夫の子は八本足であるとか、大蛇を殺した爲めに鱗のある小供を生んだとか、何んとか云うて見物人の好奇心に訴へて居る。何れは其等の中に興行師が苦心した細工ものなどあつたに相違ないと思ふ。

こんな迷信は馬鹿氣たもので、今日では何人も信ずる者はないと思はれるが、親の身にあつた疾病が原因となりて、尋常はづれた子供を持つ事はよくある事である。何人も親として其の子を愛せぬものはない、特に不具な身などは余計に可愛いといふは人情の常である。かゝる子供は親より他には深く同情をして呉れる人を持たない。だが是迄は醫者に相談しても如何ともする事が出來なかつたので、只々心を傷めて居つたのであつた。中には世間の人の見る目を耻しがつて、こんな不具な子は一層死んだ方が當人の爲めだなどゝ考ひ誤つて居る者もある。

併し昔しから不具者の中から時々天才が出づるところを見ると、其人にとりて、不具であるといふ事が、天賦の好境遇で

あつたかの如く思はるゝ事も決して少くない。

凡て不具者には、生れからの不具者と、生後に或る外傷、疾病が原因となつて不具になる者と、二種を分つ事が出來る。

それでよく興行師の見せ物になるのは、生れつきの不具者であつて、隨分甚しき變形もある。特に双兒の奇形となると念の入つた事甚しい。こんなのは今日の程度では未治療法がない。生後になれる不具即ち後天性のものも少くない。即ち國家のために粉骨碎身して不具となれる義人は勿論、疾病のために肢脚の動作を失ひて恰も棒の如くなれるもの、又は疾病そのものが惡性であるために一肢を犠牲にして僅かに生命を保つて居る憐むべき人或は花柳病のために眼を失ひ鼻を失たるものなども皆之れ後天性不具と見るべきものである。

かくの如く種々の不具者があるが、其治療の道なきや否や。其れ昔から多くの人が考ひた問題であつたが、問題は何時までも問題であつて解決がなかつた。世の中が開くると共に醫學も進んで來て、今日では不具者の中或るものは確かに治癒し、或るものは、完全治癒に至らざるも健全なる人と同じ動作を營み得るに至つたのである。勿論今日とても發達の余地は未だ廣い。今後整形外科の一部として研究せねばならぬ事も澤山ある。

此處で、現今行はれて居る不具者の治療法を悉く照會するは困難であるが、如何なる程度迄治るかを御話して見度いと思ふ。それで先づ極くありふれた者から擧げて見れば、

一　先天性顔面畸形

是れには色々の種類の珍らしい程の者もあるが、何づれも胎内生活の初めに顔面の發育が障礙せらるゝために起つて來る結果である。其の中でよく見るものは兎唇である、是は俗に三つ口といふて居る。上唇が縱に裂けて居る所から、こんな名がついだのである。一寸見ると鼻孔から口迄續いて居る様である。此の裂目は片側ばかりの事もあり又兩側にある事もある。兩側の時には兩方の鼻孔から上唇に達して居る二條の縱裂がある譯であるから三つ口と名は不相當の様になる。甚しき時には之の裂目は齒槽、口蓋までも達して居る事もある。此の様な不具兒は外科的手術で療治する事が出來る。但し其の不具の程度によりて治療に難易の生じて來るは當然である。之を治療せずにおくと、是樣な小兒は乳を飲むことが困難であるから身體の發達が惡い。又外より冷い空氣や塵埃が咽喉の方に入り易いので後で口中から氣管までよく病に罹るといふ譯けで滿足に成長する場合は少ないのである。そんなら生後何日頃に手術を受くべきかといふに、勿論小兒の營養の具合を見て定めなければならない。強健な小兒にありては生後、十日前後に於てなすべく、虚弱な小兒では生後三ケ月乃至五ケ月以内に手術を受くるが至當である。手術を受ける前後は硼酸水で口中を拭いて置く必要がある。之れを怠ると創が膿を起したり又縫目がよく合はなかつたりするものである。それから咽腔の方までも裂け目が續いて居る場合には先づ唇の方を治療して置いて、五六歳頃になりて始めて口蓋の方の手術を受くべきものである。此際治療するも見込ないときは硬護謨か何かで造りたる型を入れるのである。（未完）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文苑

乞食心（ゴーリキ）

無繋生

一

或る夕暮、寂しい田舎道の曲り角にて、浮草に身を寄せた一人の乞食が、一人の仲間に次の如くに申しました。

「うまい仕事にありつきたいと思うなら、わしの云ふことを聞きやれ。此處を眞直に行くと橋がある。それを渡ると森がある。其處を通り越すと、一寸見ても御城の樣な別莊が右手に見ゐる。別に大した壁もなければ、壕もない、おまけに其家族は留守で、番人と云ふのは病氣で臥せつてる園男丈けよ。犬も前には居つたが、何時ぞや此杖で畜生の鼻柱をうんと擲ぐつてやつたことがある。一たび室内に這入り込んだら、そりやもう、何を取ろうか迷ふて仕舞ふ程だらふ。――どうだ、一つやる氣ならば、こんな滅多善いことと二度とないよ。嘘言はつかんよ」

赤狐と呼ばれる對手の乞食はこれを聞くと、碌に返事もせずに、すぐと示された方に立ちだりました。頃は七月、身を焦がす炎熱も今は收まりて、涼風面を拂うて心地よく、みのれる麥穗は穰々と擴がりて、絨氈の如く、河は蜿蜒と流れて銀のリボンの樣です。

赤狐は橋を渡り、やがて森の端を過ぎると、歩調を早め、目指す別莊へと急ぎました。もとより襤褸をまとひ、厚い足袋を穿いてるのであるから、少しの足音もせず、夏草咲いてる草の上をば影法師の樣にやつて行きました。

未だ老人ではないけれども、顔はやせ衰へて生氣なく、如何にも飢渴窮迫に身を任せたことが明かです。少し血の氣の殘つてゐるのは二つの眼計りで、其蓬々として、狐の毛の樣な頭髮と髭は、田舎道に出沒してる他の怪しい乞食とは聊か趣を異にしてる所で、これがために、同じ仲間や、一夜の宿を惠んでくれる百姓達からは、何時も赤狐と呼ばれて居つたのです。

森を背にして向を見れば、道路から約五六丁の彼方に、別莊の一部が見ゐ、前面には種々の花を咲かした花壇があります。建物の樣子はと眺むれば、石盤板にて葺いた屋根、煉瓦と石とで積み上げた壁、派手な高塔に、玄關の廣い階段など、

いづれも人をして莊嚴の感を抱かしめる程で、『此處を見よ、これ皆わがもの、われは其主人だ』と申す計りに近傍一帶の地を睥睨して居ます。

浮浪者は足を停め、これから最後の斷行にとりかゝらふと、先づ芝生の上に身を投げました。と申すのも實は竊盜しやうとするはこれが始めだからです。

勿論これまで、田舍道を往來し、飢渴に責められては止むを得ず、チョイ〳〵した惡事をやつた覺ねはありますが、未だ一度も門戸を破り、家宅に侵入して金錢を略奪したことはありませんでした。

二

彼は籠造りをやつて居たことがありました。これを自分に教へて呉れたのは年長なる先の乞食なので、知合となつたのは唯ほんの偶然なことでした。其後と云ふものは此手仕事をやりながら、此處、彼處とさまよひまはり、夏は涼しき河岸の柳の中に身を安め、冬は情けある人の爐邊に寒さを凌ぎながら働きました。自分の造つた手頃な籠を買ふてくれる者は仕合にも何處に行つてもあります。籠は竹の小枝で編んだ樣に如何にも見事なものでした。

或る春の夕暮、浮世を遠く離れた、寂しい井戸の傍にて一人の女に遇ひました。此女は別にきりようよしと云ふのではありませんけれども、愛いくるしい目つきをして、温なしい微笑を含むで居ました、顏にはこれまで、悲慘な生涯を送つて來たあとがたが讀まれます。それも其筈、此女は片田舍に住める孤兒で、今は雇主に使役されて苦んで居る身分。浮浪者と此薄命孤女は互に相思ふ仲となり、男は無限、廣大なる蒼穹の下には自由ありと叫び、貧しき者には天

日は親切に照らして與れると高言しました。これより女は男に伴なはれ、相携へて蘆葦の多き谷間などをさまよひました。

歳月流れて幾度か寒暑は移り變はりたれども、これらの浮浪者はそれには一向心を寄せませんでしだ、所に或日のこと二人の其間に子供が出來ました。賤しき乞食の間に可憐な、小さい者が生れて、境遇の如何に御構ひなく、見る〳〵如何にも可愛らしい、蕾の様な、やさしい、色の白い、髮の毛の黄金色なせる小供となりました。之れを見た人は、誰れしも美服を着けてる金持ちの子供としか思ひませんでした。兩親は斯る思ひもかけぬ天の給物を受けては、ひたすらに驚き、これを見る毎に心も浄められて何時もうれしい、喜ばしい計りでした。子供は兩人の本尊様となりました。小供が何時も達者である様に、食物に事欠かぬ様に、安眠の出來る様にとて、二人は自分達のことは全く放棄つて、日夜に働きつとめて不平の言葉一つ洩らしませんでした。

小供は無事に成育して四つになつた時、母はかりそめの病に死んで仕舞ひました。或る百姓が籠造りに向つて『餘り繁く濕地を往來したので、熱病に罹つたのです、氣を付けなさい。特に未だ小さい子供などを、あの様に柳の植込に置きますと、同じことになつて仕舞ひますよ』と氣をつけてくれました。

父は此忠告を聞いても氣にとめませんでした。亡き妻に對する愛情は今は此愛らしい忘形見に注ぐこととなり、小供は浮浪者の希望となり、喜悦となり、美と愛の理想となりました。あゝ其美はしい捲き縮める毛髮、深き緑な眼、小さな白い歯に洩れたる薔薇の様な微笑——父親は唯々うれしい計り、思へば思ふ程うれしく、見れば見る程飛び立つ程でした。

併し忠告を聽かなかつたのが覿面、小供は熱病にかゝりました。頃は夏の初め、丁度母の死んだ一年目に小供も倒れて仕舞ひました。彼は非常に泣きました——これまで生れてから本當に泣いたのは此時が始めてゞありましたらふ。

泣いても慰籍は來ません、血液は血管から乾きつて仕舞ひ、身のまはりにある物は凡て暗黑と變じ、心臓の脈搏も停止した様に思ひました。其後と云ふものは、何時でも小供を探す様な目付きをなし、何時も小供の可憐な形影や微笑や、動作をば、如何にかして眼前に髣髴たらしめんと試みました。併しいくらやつても其效驗がありません。可愛い我が子の形見となるべきものは何にも殘らないので、父の心は益々苦しく、痛ましくなる計りでした。

此時から彼は惡漢となりました。傷める心に暗惨たる憎惡の念が次第に其威力を逞うし、何か知らん惡事をなし、物

を破壊したい様な氣になりました。

或い自分の仲間の一人が『林檎を取らうが、金貨を取らうが、つまり同じことだ』と云ふのを、默つて聞いて居ましたが『成程其通りだ、自分もこれから他の人のやる通りにやつつけて見やう』と賛ひました。

三

赤狐は草の上に大の字なりになつた儘、再び此言葉を繰り返へしました。それから立ち上がつて、近くの壕の浅瀬を飛び越ゑて別荘の方へと濶歩しました。始の程はいくらか氣も咎めたけれども、近づく程大膽になりました。いよ〳〵、其壁に手を觸れた時はすましたもので、當の敵の備なきを侮る様な氣でした。

先づ忍び足で家の周園を歩いて、樹木の植ゑてある方面に行つて見れば、地面に接して硝子戸があります。人影もない。しめたとナイフを以て錠を破り戸を明けて、直ちに内部に這入つて仕舞ひました。

始めは何物も見ゑません。天戸を引いてあつたので、室内は真暗です。併し段々目が暗黒に慣れて來ました。自分の這入つたのは客間で、空氣は冷や〳〵して心地よく、潤んだ草花の香がする様にも思ひました。黄金色の唐草模様に飾つた

壁には、古い油繪が懸けてある。光澤ある樫や、漆塗の器物は自分を取り圍み、何處を見ても高貴な、珍らしいもの計りで、未だ嘗つて見たことのないもの計り、これらの立派なる器具を見て驚畏の念胸に溢れました。いよ〳〵好む所を手に取らうとすれば、一種の新らしい恐怖心が起つて來ました。

併し兎も角も、一働きせねばならぬ、偖て何を取つて然るべき、他日賣ると云ふことになつたら、自分の悪事が露顕しやう。ふと目についたものは机です。其引き出しを一つをあければ、二個の金貨がピカ〳〵して居ます。多分主人が此處を去る時に置き忘れたものらしい。これを取らうと手を延ばす拍子に、机の上を能く見れば寫眞があります。ピックリして手を延ばした儘で立ち留まりました。寫眞と申すのは奇麗な額に入れた小供の顔じやありませんか。

捲き縮める髪の毛、深い緑りの眼、小さな白い歯を現らせる微笑をばつく〴〵眺めました。これは此家の主人の愛子なことは明かです併し浮浪者にとりては我が子の繪です。彼はこゝに計らずも再び可憐なる乞食小供の面容に接したのです。これは偶然なる類似なりとすればそれまでのこと、自分にはそう思はれません。死んだ小供が此繪となつて殘つて居つとしか思はれません。

浮浪者は此上、愚圖〳〵する必要はない、直ちに此肖像を

取り上げて、之れに接吻を浴せかけ、胸にあるポケットに挿し込んで、急き足で其場を逃れ出ました。

彼の一切の憎悪の念は一掃されて仕舞ひました。これが最初の竊盗で、又最後のものでありました。他のものはいくら價値のあるものでも、毫も慾がない、何せとなれば、今は乞食心にも熱情を以て愛した我が子の形見を手に入れたんですもの。

日向葵（ハーン）

高濱長江譯

家の後の小山の森で、ロバートと僕は魔の園を探してゐる。彼女は八ッになる優しい、至つて賢い娘だ――僕はまだ滿七ッにならないが――彼女を尊敬してゐる。八月の暑い晴れた日で、暖い風は鋭い佳い樹脂の香を溢らしてゐる。

僕らはから魔の園を見けない、だが高い枝に、大きな松毬を澤山見けた……して僕が、これはウエルスの昔譚だが、ある人が魔の園で、思ひがけなく眠つて仕舞ふて、七年間も見ねなくなつた、其間、友達と食事も會話も爲ないでゐて、最後に魔法遣から助けられた、と話すると、

「君も知つて居らつしやる、彼らは針の尖を喰つてるばかりよ。」とロバートが言ふ、

「誰れが？」と訊くと

「魔法遣がよ。」

此の啓示に、僕は魂消て、思怖つて、唖のやうになつた……

……でも彼女は直き又斯う云ふた、

「樂手が！――彼處に樂手が來てよ。」と

僕らは、その音樂を聽かう、と小山を走つて下りた……だがまあ樂手は！繪本で見た年老つた琵琶法師の樣ではなくつて、黒い蹙めた眉毛の下に、黒い劍のある眼で、頭も無作法に髮蓬々とさしてゐる放浪者だ。音樂家よりも寧ろ煉瓦の職工に近い――して其の衣物も木綿のゴツ／＼だ！

「變だネ！彼の人はウエルスへ謳ひに來たのか知ら。」とロバートが囁いた、

で、僕は非常に驚いて、話の緒も見けなんだが、樂手は自分の竪琴を持つて――大きな樂器だ――僕らの石段の上で、彼れが汚い指の一手彈で、強い音色を彈いた、して其の絲の怒つたような唸で以てハッキリと斯う唄い出した――

私が今日うれしく見てゐる
この愛らしい若者よ
若し私を信ずるならば……

其の抑揚と、姿勢と、聲樂とが、全く僕に言ひ難い嫌味を

感じさした――驚くべき野鄙な新しい感覺を僕に與ゐたので、僕は默つてはゐられなかつた『君は其の唄を謳ふ柄ぢやない！』僕は、僕の小さな世界で、一等愛らしい、一等清い人の唇から其唄を聽いたことがある――して此の無作法な、無骨な人が、僕を嘲けるやうに無理に謳ふのは――無禮なのに腹立しい。――でも只それはホンの瞬間で！……『今日』と云ふ非常く聽き苦しい音聲の調の發音が、急に言ひ難い震ひを帶びた嬌嫩に移る――と不審議な變化が、大きいオルガンのやうな豐富した樂聲に熱して來た――その音で僕は今まで知らなかつた一種の感覺に襲はれた……彼れはドンナ女巫から敎はつたのか知ら？ドンな秘術を見けたのか知ら――此の旅の樂手が？……おゝ世界中に斯うも謳ふ人が外にあらうか？……して啄木鳥の唄ひ樣や――家や、庭草や、凡て目につく物象が、僕の前に慄ゐて目眩いので、自然と僕は其人が畏怖い――僕は彼れが厭だ、僕は独でに其の樂聲の力で、不意に腹立しさと羞耻さを感じた……

僕が非常狼狽てるのに『彼奴が君を泣かした。』とロバートが憐むやうに云つて――廿錢與たのに禮も云はないで、樂手が大肚に去つて仕舞つた時に、憐むやうに云つて……『でも私には、彼の樂手は無頼漢に違いないと思はれてよ。無頼漢と云ふ奴はネ惡い人間よ――彼奴は魔法遣だ……森の方へ後歸りしませうよ。』と云ひ足した。

で、僕らは、松の間を又登つて、日向葵の下に踞んで、町と海とを眺めた、だが前のやうには遊ばない。彼の魔法遣の呪咀が僕らには不審議だ……『恐らく彼れは、妖怪か、仙人だらう？』と僕が云ひ出すと『否ね――たゞ魔法遣よ、どう見ても惡物らしい、彼の人は兒盜人。』とロバートが答ゐる…『彼奴が此處へ來たら、僕らは如何しやう？』と僕は僕らの居所の淋しいのが、急に畏怖なつて、斯う云ふと、『あゝ其麽ことはないでせう――君も知つてるやうに、來るのは晝間ぢやないよ。』と答えた『たつた昨日だ、高田村の近くで、日本語でも英語でも能く似てゐる日向葵と云ふ花を見た――して其れが四十年前の彼の不審議な樂手の樂聲を急に思ひ出さした――

日向葵は太陽について廻る
夕陽が沒れば花も頂垂れ
朝日が登れば亦つき廻る。

私は遠いウエルスの小山の彼の日向葵の彩を再び見た、して又直と私の側に、彼の顔と、黄金色な縮髪のロバートの立るのを見た。私達は魔の園を探した事があつた。だが實際ロバートの生てゐた事などはヅッと以前に非常な變化をしたに違いない。人その友のために命を失ふ、此より大いなる愛はなし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

基督信者のなさけ

大塚楠男

一

昔獨逸の國にウォルフガングとライムンドと云ふ兄弟がありました。父は早くから弟ライムンドをマルタ島の武士團の中に入れるようにして置ました、弟ライムンドも勇氣勃々、早くマルタ島に行つて現役武士となりたいと思つておつたので、弟思ひの兄は獨り手放してやる氣になれず、自分も一所に往く事とに決心し、其所有地を賣拂ひ主要な財産を取纏めて、二人でマルタ島に移住し、豐饒な耕地を買ひ込んで茲にウォルフガングは幸福な夫となり父となりました。弟ライムンドは武士團の職務上屢海賊など〻危險な海戰をやつて家に歸り、自分の手柄話や又異教徒に對しては永久の戰鬪を續けなければならぬと憤怒する時は、兄は温和しく彼等に對しては白刄ばかりでなく他のやさしい武器(宗教の事)を用ゐなければならぬと屢諭しておりました。

ある年武士團では夥多の船を海賊に奪はれたので、其復讐に一大打擊を彼等に加へようとの決議がなり、ライムンドも亦軍に從つて出征する事となりました、戰爭の結果は勝には勝つたけれども味方にとつて損害も甚だ多かつた。特にライムンドの乘つてゐた船が敵に捕獲されたといふ事は實に大變な事であつた。多分は討死した事と味方は思つておりましたが幸にもライムンドは死なかつた。いや幸とは云ふ事が出來ぬ、生命は助かつたもの〻死よりもつらい悲運が彼を待つておりました。海賊は重傷の武士を一生懸命に介抱して生命を取止めようとした、と云ふのはアルジールの奴隷市場にさらして賣飛ばそうと思ふからであります。ライムンドは身體魁偉強壯で實に堂々たる風彩を持つておつたから、多くの顧客がついたが、海賊の請求する價格が非常に高過るので久しい間誰も買手がなかつた。遂にチド●ムレーと云ふ年の若い土耳斯の紳士が表はれて來て、丁度馬か牛でも買ふ時の樣に、骨格を檢査して請求通りの莫大の金額を拂つてライムンドを奴隷として買ひ取つた。これ以後ライムンドは苛酷なる監守人に渡されて毎日〳〵苦しい仕事に追ひ使はれました。昨日迄は立派な武士としてゐた人が今日は奴隷として人に使はる心を、嗚呼、誰か詳しく説く事が出來ませうか。然し彼はもう仕方がない天命に從つて自分の薄運を忍び、彼奴隷の傲慢無禮を堪へ心中獨り超然としておりました。仕事場になどめつたに出て來た事のないチド●ムレーはある日何と思つたか仕事場にやつて來た、ライムンドは絶望の極、彼の膝下に身

を抛げ出して殺してくれと願つたが、ムレーは、「お前を殺したら、お前を買ふた高い金額はフイになる、殺しちやあはない、がお前には見處がある、丁度昨夜園丁の一人か自殺して死んで不足になつたから、お前を園丁に取り立てゝやろう」と云ひました。ライムンドは其後牛小舍みたやうな汚い室に寐なくともよくなり、無情なる監視人の鞭撻の下に苦まなくともよくなつた事を喜んでおりました、と云ふのは主人の庭園を掃除する奴隷は主人直接の管轄に屬して、從つて他の奴隷よりは比較的厚遇を受くる事が出來るからであります。

一體ムレーは熱心なる回々敎の信者で中々思慮もある男なので機會さへあれば、種々の手練を盡したり或は威嚇したりして奴隷を回々敎に轉宗せしめようと決心しておりました。意志薄弱で情慾を制する事が出來ず、又專ら基督敎を確守して奴隷的境遇を忍堪する事が却つて宗敎上の名譽だと思ふ事の出來ない連中には、ムレーの目的は成功しました。斯くして背敎者は全く自由にされ又富貴になる事を待ましたが、之に反してライムンドに對してはムレーの手管も何の役に立たない。ライムンドは答へて曰ふ、予は死んでも基督敎信者たる事はやめない、汝は我が胸より十字架を奪ひ去る事が出來ても我が心よりは奪ふ事は出來ない、背敎者でも汝が說く敎旨を感心して轉宗したわけぢやない、汝の殘忍や監守人の慘酷な鞭撻の恐しさに堪へ切れずして降參したのだ。然れど眞個の基督敎徒はそんな事にピクともするもんぢやない、それが虛言と思ふなら先づ予を試して見ろ。」と云ひました。ムレーは少しく怒つたが、心中恥づる處があつたと見えて其儘默つて其所を去りました。ライムンドの氣節が堅固で到底動かないとみたからであります。ライムンドは斯の如く主人の嚴命にも友情にも頭から輕蔑を以て返へし、身には奴隷の衣服を着ながらも不撓不屈なる武士の精神は失ひませんでした。けれども又自分の義務の存する處は忠實に誠意を以てやりましたから、ムレーは漸次ライムンドを尊敬するやうになりました。

二

斯くして幾年か過ぎ去りました。ライムンドは嚴然として基督敎信徒として立つてゐた間に、他の奴隷中には怨恨の結果謀反を計劃じ八人の同志が結黨した、勿論ムレーを殺害し其財產を掠奪した後一隻の船で逃走ようと云ふのである。

ある晚ライムンドは園內の端の方にある草花に水を灌いでおつた處、ツと近處の無果花の木陰にあるムレーの常に愛しておる園亭から、けたゝましい響と恐しい呻聲を聞いた。彼は直ぐ驅けつけて見ると、園亭中にはムレーが地上に打斃さ

れ、叛徒等は將にムレーを縊らんとする處である。「待てッ、叛徒奴！」と叫びながら、持つてゐた鍬を取直して叛徒を擊ち仆し、烱々たる眼光を以て睨へたる基督教武士の態度は凛として犯す可らざるものがありました。「去れ！叛徒等よ、苟も基督教を奉ずる者は、殺人謀叛などのいやしき行爲によつて自由を得るが如きは斷じてなす可き事ぢやない」と云つて彼等を門外に追ひやつた。其間にムレーは本氣に返つて、全然事の樣子を悟つた。彼は立ち上つて「おゝ、汝は命の親だ」とライムンドの胸に縋つたが、ライムンドは冷然として彼の感謝を退けて、「予は公然の戰爭に於て汝を殺す事は辭さないが、謀叛や暗殺のやうな卑怯な方法でするものがあらば、自分の仇敵だと云つても之を助けてやるのが基督教武士の責任である」と申しました。

ムレーは甚くライムンドの義心に感じ其恩に報へんが爲に、幾万といふ金銀や宏壯なる邸宅を贈らうとしたけれども、ライムンドは悉く之を斥けて受けなつかつた。ムレーも遂に彼の崇高なる精神に感動して彼の自由を許すと時に八人の叛徒を率ゐて故國に歸る事を許しました。

兄ウオルフガングは此間樂しき家庭の裡にありて幸福に日を送つて來たが、愛弟を思ふの情は一日も心を去らず、深き悲みにとざされては家族に弟の昔語をしてせめてもの慰としておつた。其處へライムンドが生きて歸つた時の家族の喜びは果してどんなでありましたろうか。年寄になつた兄弟が昔の儘な若い愛情で相抱き合つてるのに、今は已に美しい青年となつてる子女が喜び勇んで飛びつく樣など誠にうれしい極であります。

彼等の歸國は大なる注意を惹起しました。助けられた八人の者は盛にライムンドの德を稱賛しだので、武士團でもライムンドに最高の名譽職を與へました。今は早や二人の兄弟は又もや昔の幸ある生活に復り、互に強壯なる老人となり、ライムンドは兄の孫を膝に搖る樣になりました。處がまた回々教徒が一大損害を基督教徒に加へたといふので、又々復讐戰が始まつたけれど、ライムンドは當〃顯職に居つたので自ら出陣するわけにはいかなかつた。戰爭は味方の大勝利で二隻の捕獲船に數多の捕虜を乘せて凱旋しました。

扨て凱旋式が擧げられると云ふので、武士團長は人民の歡呼の中に、鐵鎖にて縛せられたる捕虜を引き廻はした後、宮殿の前庭に導かしめた。此處には不幸なる捕虜の罪を決する爲に凡ての武士は召集せられた。當時武士團の管理者たるライムンドは團長の側に立つて感慨に沈んで捕虜を眺めておつた。之は彼がアルジールの市場に於て之と同一の悲境に在つた事を想起したからであります。時に突如捕虜の中に見覺の

ある顔が目についた。でよく見ると……間違なし…………實に之れチド●ムレーでありました。流石のムレーも不幸なる運命の重荷に俛首れておりました。ライムンドは忙しく閘長を小陰に引いて一寸耳打をして兄を招んだ。ウオルフガングは高價い金額を拂つてムレーを武士團から買ひとつた。そして彼を自分の別莊に連れて來て、麗しい室に入れ鐵鎖を解いてやり、海戰の際受けた傷の手當をするなど親切に介抱してやりました。ウオルフガングが幼い孫共も果實やら草花などを持つて來て同情を寄せ、何か不足はないかと聞たげな様子でした。

三

可なりに日數も經過つたので、ある朝、ウオルフガングは彼を畑に伴つて行つた此處には鐵鎖につながれたものもなく、無情なる監守人も見ゑない、ムレーの耳に慣れておる嘆聲や呻吟の代に戲談や歌の聲が聞ゑる許である。ムレーは命を受けて滋々畑に出たが皆と共に夕方迄中々よく働いた。ウオルフガングは「今日は誠によく働いてくれたから、相共に慰勞をしよう」と云つて彼を海が見ゑる涼しい閑亭につれて行つて、安樂椅子を與へながら日沒の景色を眺め乍ら、彼れの身の上話を聞いたり又は自分等が互に信賴して全く自由に生活しておる有様を說き聞した。此時丁度娘共が子供を連れてウオルフガングをさがしに來ました、で直ぐと可愛らしい子供達が祖父さんの胸や膝にからみ付く有様、白髮の老人は恰も天使に圍繞れた神様のように見ゑました。ムレーは此睦ましきうるはしき有様を見て、未だ嘗つて知らない一種の感情が湧いて來て恍惚として仕舞ました。そして家族の人々に從いて其邸宅に行いてみますと、偶々青年達は仕事を終つて歸り祖母は晩餐を調へておりました。團欒の中央でウオルフガングが夕暮の祈禱をした時はムレーは非常に深く感動して、其晩はいと安かに床に就きました。

ウオルフガングはムレーに先づ以て基督教は如何なものであるかといふ事を實驗させ、又は基督教の信仰によりて起る幸福は如何な物かを悟らせ、自分から進んで基督教に改宗を願ふやうにしたいと思ふたので、ムレーには強ゐて改宗させようとはしなかつた。實は此事はライムンドが兄に賴んだ方法で、彼は度々來つてムレーの模樣を聞いておりました、然しまだ適當な時でないと思つて一度もムレーには顏を見せませんでした。

ムレーの心の憂愁は漸々消ゑ去り、故國を慕ふ心はウオルフガングの家庭を愛する心と代つて來た。彼は子供がなくては寂しくてゐられぬ様になり、毎朝出て皆と一所に勞働に從

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事し、面白い談話をしながら食事を共にし、晩になるとウオルフガングから人類の價値や運命など又は宗教に關する談話を聽くのが何よりの愉快な事となりました。遂々迷の雲は彼の眼からとれ、基督教の光明は彼の心を温め、又喜ばせたのであります。

或日彼は子供と共に坐しておりました時、年上の少女が先達誕生日に祖母樣から貰つた黑檀製の十字架をムレーに示していふやう「あなたはまだ十字架につけられた救世主の事を御存知ないでせう。そんなら話して上げませうか、ね、御覽なさい、死でさへ救世主の温な顏を損ふ事が出來ないぢやありませんか。此お像に接吻なさいよ、基督は、汝等互に相愛せよ、然らばそれによりて汝等が我が弟子たる事を知る可しとお仰つてゐます。あなたもとうに私共を愛しておいでになるから、矢張りあなたも基督信者だと思つてゐますよ」。すると一人の男の子が口を入れて「エスさんは第一子供を愛しなされた、だつて、ある時其弟子に、小兒を我に來らせよ、天國は小兒のものなるを以て、彼等の來るを妨ぐるなと仰せられた」と申しました。ムレーは小兒の無邪氣さに感激して「そう〳〵、子供の潔白な心に宿つておるものは神の平和である。おゝ救世主よ我が胸にも平和を得させ給へ」と彼はの小兒の差出した十字架の像を握つて泣きながら顏にあてました。

先刻から小陰にかくれて一部始終を聞いてゐたウオルフガングは此時ムレーの前に進み出て、今迄の事は何にも知らない風をしながら、「お前も此家にゐる事茲に一年になつた。予は自分等が敵に對して取る處置如何をお前に見せようと思つてゐた。已にお前は基督教を信ずる家族の生活や行はよく視た事と思ふ、今お前を解放するから自由に故郷に歸れ」と云ひますと、ムレーは默然として手にせる十字架を視つめておる許り。けれども子供等はムレーの身體にすがつて、「否、往つて仕舞てはいけない、此處においでなさい、故里に歸つたとてわたしだちよりももつと余計に愛してくれる人はありますまい」と云ひました。するとムレーは老人の腕に仆れかゝつて叫ぶよう「留めておいて下さい、無情な世界に私一人を捨てゝ下さるな、私も基督教信者になりたいと思ひます」と。此時不意にライムンドは彼の前に現はれた、ムレーはおゝと叫びたるまゝ、二人は永い間抱き合つておりました。ムレーは「あなたは私の保護の神です、前には私の生命を救ひ、今は亦私の精神を救つて下すつた」と云ふと敬神の心に富んだライムンドは首を打ちふりながら答へて、いや〳〵そうではない、弱き中にあつて強きは神樣ばかり、そして眞理と生命は凡て基督にあると申しました。（エルンスト・フォン・ハウハルド）

花藻

田澤藤郎

○休息の岸も知らねばひたすらに波の花藻の身をぞ戀しき

○何とかや草に寐て泣きふと見出し花の一に似たる吾身や

○大神の神の律に背かじと此初秋の衰の身や

○淺小竹のしぬをい渡る初秋の風は今宵も吾心ふく

○わだつみの波の縁は永久の夏をたゝねて盡すもあらなん

我が心

侃四郎

○蒼き花のゆら〳〵ゆれて蒼き露のころ〳〵落ちぬわが心草。

○傷きし獸の如き聲立てゝ野をも山をも驅け巡りたき。

○ふと醒めて驚きてとる我が脈のひゞき淋しき秋の朝かな。

○我を看護ると母はもたしてうつむきて運べる針の白きよ秋は。

○數知れぬ燈火浮けり北うみの港の眞夜は秋雨のして。

○蟷螂に半食まれてしゞと鳴く蟬をきゝたり悲しき夕。

○一様の衣を重ねて被布をきて興ずる人を只眺めゐぬ。

○大樺や冷き幹に身を寄せて梢に仰ぐ秋の雲かな。

○折々は驚きて見ぬ心より餘りに遠き人々のむれ。

○人去りし會堂の隅ひとりゐて祈るに堪ねぬ我が心かな。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講壇

弱者の勝利

海老名彈正

淺薄に考へると弱者は常に負けるもの丶樣に思ふが事實は却つて反對の例證を與ふる場合がある。手近い所から見ると世の中は富める人や位高き者ばかりでなく其日〳〵の生活に逐はれて今日はどうしたら過せるかと案ずる者も尠なくはない。けれども此頃の歐米の社會では如斯勞働者が一種の勢力を作つて殆んど貴族富豪を壓せんとして居る。それであるから社會に勢力を得んとする者は、どうしても勞働者に取り入らなければならないと云ふ話である。過去に於ては勞働者は社會からは見捨てられ、資本家からは壓迫せられて立つ瀬の無かつたものが、今日では兎に角一大勢力を築きつゝある事は弱者必ずしも負くるにあらざる事を示して餘蘊なきものと思ふ。其の如く女子は男子に比すれば力なきものであるが、男子に負けるものとばかり極まつた者ではない。雁なきて月影寒き秋の空に、獨り眺めて夜を徹す憐れな一面もあるが更に他の一面を見ると、女の纖手能く剛骨の士を捕へて身動きもさせぬ力がある。

開卷先づアダム、エバの話がある。これは物語で歴史ではないが、アダムに勸めて善惡を知る智識の木の實を味させたのを見れば女と云ふ者をイスライル人が如何に感じて居つたかが分る。即ち夫に從ふ可き筈の妻が賢しくも之を從はせたので、云ふて見ると弱者が強者に勝つたのである。又イスライル民族がカナン人に壓迫せられて二十年、苦みに苦んだ時、之を災厄の中より救ひ出したる者は衣にも堪へぬかよわきデボラである。而かも將軍バラクはデボラ無くしては戰へぬと迄云ふた。イスライルの獨立戰爭はデボラの指導の下に開始せられたのである。而して又斯う云ふ事もあつた。敵將シセラが敗軍の憐れさは何處に宿る家もなく、唯獨り徒立となつて隙に人やあると恐れ乍らやう〳〵日頃心安くしたヘボ

ルの家に辿り着いた。するとヘボルの妻のヤエルは之を懇に迎ひ入れて呉れたから、シセラはほつと一息ぐつすり寢てしまつた。そこをヤエルは覗つて寢首を掻いた。方法は如何にも卑劣であるが、飛ぶ鳥落す勢なる將軍を一個の女が打取つたと云ふ事は當時の道徳から云ふと愛國者と云ふ可きであらう。サムソンの話は日曜學校の生徒も知つて居るが詩人ミルトンに依つて高調せられた所を見ると讀み去り讀み來つて感興湧くが如しである。彼が如き英傑を如何にして捕ふ可きかと云ふことに就てペリシテ人の頭を惱ましたのも無理はない。彼等色々策を廻らした。けれども效が無つた。其處で最後にデライラーと云ふ美しき一婦人を用ゐた。それは傾城である。而して此計は圖に當つて山を拔くサムソンの力をして無能ならしめた。更に降つて新約に至ると娘サロームの緩るく舞ふ、舞の手振はヘロデ王を捕虜にした、其結果ヨルダンの野に叫びし豫言者ヨハネを刎ぬるに至らしめた事が書いてある。此等は何れも男子の弱點を利用した例で褒む可きものではない。然るに吾人をして奇異の思をさせるのは人間の最も完全なる方として新約に輝くキリストが弱き女子に捕へられた事である。基督は強い方である、立派な方である。それをどうして女子が捕へたか。聖書に依れば此女は猶太人でなく異邦の人である。或はカナンの女と云ひ或はギリシヤ人

と云ふが恐らく血にはカナンの系統をつぎ乍ら、希臘人の中に混つて居つたのであらう。此人は已が娘が病氣の爲に苦んで居るのを見てイエスに救を求めた。憐む可き婦人で寡婦の樣に思はれる。それが基督に勝つたのである。世に基督に勝つ者は無い、ペテロ、ヨハネの徒も、祭司も之に勝つ事は出來なかつた。獨り此等の人ばかりでなく、當時猶太全土に赫々たる權威を振ひしピラトと雖勝つ事は出來なかつた。唯イエスに勝つた者はシロ、フイニシヤの女である。これより先イエスはガリラヤ地方に傳道せられ、初の程は非常に勢が善かつたが、パリサイの陰謀の爲め永く止まる事が出來ず、去つて邦外のツロ、シドンに退いた。これは基督に取つては實に血の思である。孔子が故郷を去るに臨み「父母の國を去るなり」と云つて思を胸に、去り兼ねて佇んだと云ふが基督の國を去る、又同じ思であつたらうと推し測られる。由來ナザレのイエスは國を愛するの人であつたのに遂に容れられずして異境の空に彷徨はねばならぬとは何たる事であらう。それを忍んで嫌々乍ら行かれた、其氣の鬱いで居る時であるから憐れなる女に冷淡であつたのも無理はない。或人はこれを試めす爲であつたらうと云ふが、強ち然うではあるまい。女は望み望んで、此人ならばと堅く信じて來たのに、基督は自分に取り合つて呉れない。娘は苦んで居る痙攣を起してゐる慈

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

母の胸は張り裂ける様であつたらう。けれども女は腹を立てない、失望もしない、而して切に願つた。然るに基督は「イスラエルの迷へる羊の外に我は遣はされず」と仰せられる。最早失望する外はない、けれども女は肯かないで更に求めた。餘り其心の切なるを見て譬喩を以て「子供のパンを取りて小犬に與ふるは宜しからず」と敎へた。すると女は隙さず『主よ然り、されど犬もその主人の膳より落つる屑を食ふなり』と答へた。云ふ意は貴君は今異邦に來て居られるのじやありませんか、さすれば貴君は既に御自分の旨意に戻つて居らつしやる、異邦にても困る人があれば恵を分けて下さない筈はない、食臺より落ちたパンの屑は最早可愛い子犬のものであります。私は恩恵の一片を戴く權利があります。恁う云はれて見るとイエスも拒む力なく、遂に其求に應じられたのである。耶蘇を擒とした弱い女子の力、唯可愛い娘、恐くは獨り娘であつたかも知れん、その娘が病氣に苦んで居るのを見ては立つても坐つても居られないまゝに、此處迄行つたのである。即ち子を思ふ母の至誠は終に神人基督の心に火をつけたのである。基督も此に對しては何等拒む力がない。婦よ爾の信仰は大なり願の如く爾に成る可し、斯く仰せられた。思ふに此問答に於て學ぶ可き二の眞理がある。一は馬可が此女の記事を取り入れた事である。勿論これは今日から見るとさまで重要な事でないかも知れぬが、其當時にあつては看過す可らざる事柄と云はなければならない。基督敎が世界的宗敎となつたその種子は既に基督の行爲に存して居つたことを證明せんが爲である。も一つは凝りかたまつた愛國心が破れた事である。基督は始終内を御覽なされた爲に外を顧みる遑がなかつた、それが一度此婦人に接して廣く世界を受け容るゝに至つた。基督はその同胞に冷遇せられ、誤解せられて、憂心忡々たりしもの異邦一個の婦人の至誠に觸れ、その樂天的精神忽ち花咲き、その世界的傳道の有望を感得せられたことである。彼女は何人であるか。異邦の權威ある者じやない識見ある者じやない名もなき女である。然るに基督をして汝の信仰大なりと云はしめた所以の者は唯一の至誠があつたからである。此事實を更に深い所に推はめて見ると天地の神を感動せしむる事が出來るに違ない。私に取つては此處は非常にむづかしい。御心に委せ給へと云ふ消極の一面は出來ると思ふが我から進んで天地の神を動すと云ふ一面は殘念乍ら未だ道遙なりの感があるけれども神は我々に獨立心を與へて、各自一個の人として立つ事の出來る樣になさしめ給ふたのであるから我が人格を以て神にぶッつかるものが無ければならぬ。神も又之に應じ給ふに違ひない。貴女方は進んで如上の信仰を持つて戴きたい恐く神樣はそれを待つておられるであらふ。

雜錄

妙華園を訪ふ

一記者

十月十七日の祝祭日にはもつて來の日本晴、うらゝかな秋の日が椽先一杯にさし込んで、日向ぼつこをしてゐる猫の脊から、燃ゑつけと許り炎陽をたてゝおる。好晴好機逸すべからず、明日をもたば定めなき秋の空の、雨とも風ともならふも知れず、早速かねて聞き及んだる南品川の妙華園を訪ねて、秋の草花の色香を賞し、合せて園藝の話でも聞かうかと、フイと出かける。通りに出ると之はまた大した人、今日の休みを散歩遊山のお仲間であろふが、何れ行く先は上野か淺草か、扨ても電車の込む事よ。

京濱市電車を南ばんばで捨てゝ西へ五六丁、鐵道線路を踏み切ると、實る程頭を下げる稻穗哉の黃波百頃、蝗がはねるやら秋蜻蛉が飛ぶやら、故郷の新田の景色に其儘だとツヒ恍然としておる側を、美しい衣物着た人の幾群が、コスモス、ダーリヤなどを大事そうに新聞紙に括つて行く。もう近いなと見る目のさきに、門札妙華園とは讀まれたり。刺を通じて待つ間程を園内を一周すると、此處にも亦人が一杯なのに驚いて仕舞ふ。南品川の田舍迄自分も余程物好だと心中私かにくやんでゐたが、扨てどうして〳〵。草株仔細にして泉石分明。坂を上れば閑亭三四、下ればコスモス、ダーリヤ、カンナ、水蓮なんどの花が縱横に咲いておる。特にコスモスは非常に多く遠くから見ると、美しい蝶々があつちにも此方にも群れておるとしか見ゑぬ。其間をお納戸の余糸入羽二重のお揃も通れば西洋婦人も練つて行く、角帽もお下げも蝦茶も、大したものだと恐縮して仕舞ふ。ブランコも出來ておればテニスコートもあるし、特に女子運動場の一棟が設けてあつて、種々の運動機械が備へてある。尙團體にて前以て申込めば無代にて湯茶の用意もするとの事。なる程夫がためか淡路女學校かなんかの同窓會見たようなものが開かれてゐたようだ。何しろ五千余坪の地積四棟の外國風固定温室と二棟の陳列室及多數の温床框、又は煉瓦造りピットの設けがある、それに園主が米國遊學中に得たる學理と經驗によりて經營する處なればソツがあろふ筈がない。

忙しい中に一寸あつて聞いただけを紹介すれば、

今植えてよいもの

は球根である、之は種子とは違つて已に球内に來春開花す可き花蕾をも含有しておるものであるから、其栽培も甚だ容易で、種子のやうな手數はいらぬ。良種を適當の土壤に植ゑ付けておくと來春の開花は疑ふ可らずである。只注意としては鼠害を防ぐ事と、地中に於ける水分多量の爲め球を腐敗せしめない様にする事で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ある。植付けた時は水をやらぬが原則で、素人衆が何でも彼でも水をやらうとするは大きな間違であるそうな。

◎チューリップ　十月中旬迄に深さ三寸距離も三寸位に植込む。開花期は翌春三月末から四月迄の間、花期頗る長く冬期霜除の手數がいらぬ、百合科に屬して花言葉はDeclaration of love（愛の告白）又はBeautiful eyes（麗はしき眼）。

◎アネモネ　九月から三月上旬迄植込に適す。早く植ね込んだものは三月下旬より開花し、遲いのは六月中に開く、栽培方がよいと一球から二十數輪の花を見る事が出來る、花は濃艶で頗る美しい。毛茛科で花言葉を Forsaken（棄る）。

◎ヒヤシンス　十月深さ三寸距離四五寸に植込めば翌春四月には一花頭に數十花叢り開く、之は色彩が美麗なるに加へて馥郁たる芳香があるので賞せられる。花期も頗る長く性強健で耐冬种である から東北地方の如き寒地にも容易に栽培する事が出來る。百合科に屬するもので花言葉を Sport, Game, Play（競戯、遊戯）。

◎花サフラン　原名をクロッカスと稱する者で、十月から十二月中旬に亘り深さ三寸距離三寸に植込と陽春三月の候には嬋娟の花を競ふ。之も耐冬性であるから霜除を要しない、鳶尾科に屬して、Youthful（少壮）Gladness（喜悦）等の花言葉を有しておる。

◎スノードロップ　半陰なる濕地に適す、植込は秋早きをよしとするけれども十二月迄は差支がない。早植のは早春二月には純白雪のやうな可憐なる鐘状の美花を開く。種類によつては青き色彩を有する者もある。深さは一寸乃至二寸、距離は二寸、植込後は數年間植替へざるをよしとする。霜雪は此植物の最も好む處とやら。

◎水仙　在來種と別に近年歐米から輸入せられたラツパ水仙は在來のより色も美しいし、風姿も瀟洒挑嚴の態をもつておる。之も十二月迄植込に差支がない。深さ三四寸に距離は六七寸が適度である、開花期は三月、大概鉢植によろしく、又は水仕立に適するのもある。

水仙類は總て半陰なる濕地を好み、植込後は數年間植替へてはいけない、鉢植の

際にも土は乾燥してゐない方がよろしい。

◎リリー　風姿と云ひ芳香といひ申し分なしである。種類に依りては特殊の地でなければ栽培に適しないけれども、概ね培養は容易である。植込は初秋がよし、球の大小により深さは三寸乃至五寸とし距離は七寸乃至一尺位がよい、注意すべきは新らしき肥料は大の禁物である、百合科に屬して、花言葉をPurity（純潔）。

◎アマリリス　球根植物中他に比類を見ない程、風采も立派で艶麗である。冬季中充分なる霜除を施すと戸外栽培も出來るけれど鉢栽培が最も安全で且つ普通なものとされてゐる。植込は十一月か一月、鉢は成る可く腰高の六寸鉢乃至尺鉢を用ゐ、球一個を植込んで溫室の內に置くと、早春一花梗頭に一乃至六花をつけ、深綠の大なる葉と相對照して頗る美觀を呈する。切花として尤も妙である。石蒜科植物で花言葉をPride（ほこり）又はSplendid Beauty（莊美）と申す。

日本の家庭に嫁したる英國婦人の經驗談

仁川の某外國會社に勤務される鈴木四十氏の令夫人は英國グラスゴーの方ですが、日本の家庭に嫁して頗る評判の良い方であります。目下良人と共に歸省されて居るので、記者は御宅に夫人を訪れ種々經驗談を承はりました。御宅は丁度新人社の隣で、夫人に就いては兼々其舅姑方から承つて居りました。夫人は中肉中背、細面の色艶よき頰に始終愛敬を湛へて語られます。勿論洋裝でクリーム色の上衣とインデゴの袴。今其話の二つ三を御紹介申しませふ。

概して申せば日本の家庭の生活は英國のと比較して、餘程簡單で又容易であると思ひます。例へて申すなら食堂でも西洋ではテーブルにはテーブル掛があり、ナイフやフォークは一々常に輝く様磨いて置かねばならぬといふ様なことかあります。尤も卓子掛などは近頃はある日本家庭でも用うる方もありませふけれど、それも西洋風を眞似たので普通は餘り見ないと思ひます。私は此方に嫁つた當座は舅姑とも居致しましたが、凡て親切で餘り不便を感じませんでした。只一番困ることで又嫌なことは床の上に直ぐ座ることと、臺所の狹いことで御座います。併し疊は良いと思ふて居ります、殊に子供の爲にはよい様です。日本で感心したことは僕婢の善良なことです。私の使ひましたのは何れも叮嚀で又禮儀正しい者でありました。又日本の物で私の殊に好いと思ひますのは、日本形の風呂です。西洋形の長くて淺いのよりも、日本形の深くて大きい方が入り心地が好く思はれました。

私には七才の男兒を頭に二人の娘が御座いますが、一番下のはまだ孩兒で、私は乳が出ませんからミレンス、ミルクを用ゐて居ります。充分に出るものなら勿論母乳に限りて良い孩兒の食物は御座いません。ミルクをやるにはミレンス流の壜を用ゐて居ります。之れは兩端に口が開いて居りますから、掃除にも便利であります。普通片口の壜は底の方の掃除が充分に屆きません。そして兩端の口はゴム

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の蓋でシツカリと俺はれます、(記者は此のミレンス流の壜を始めて見たのですが、其吸口も短形にして掃除される樣になつて居り、且小兒の年月に應じて幾許のミルクをやるかといふ目盛かしてあり、頗る便利な樣に思はれます。近年我國でも短形の吸口を發明使用されて居る樣ですけれど、未だ之には及ばないと遠いと思ひます。此壜を使用した後は何日でも直ぐ水を少しいれておきます。孩兒には三時間毎にミルクを食ります。夏一日の時間々々を申して見れば、朝は六時頃に起き・八時から九時　の間に風呂に入らせ、それから天氣が好ければ一時間乃至二時間許戸外運動を致させます。午飯の後は一寸眠らせる樣致して居ります。ミルクを食つた後で、一寸輕く胃の邊を上から押してやると、胃中に入つたガスを吐出します。これは眠る時にも其他の場合でも餘程小兒に好い樣です。夕方六時に又食べて直に床に入らせ、夜の十時又は十一時頃に食べさせます。湯は冬なれば、朝でなく夜致させます。長男は來年から學校に行かねばなりませんが、今は毎日朝の一時間丈宅で勉强させて居ります。夜は偶々御伽話を致して聞かせますが、子供は矢張りガリバーの旅行やロビンソンが大好きで御座います。

日本に參りて交際申した方には皆親切で叮嚀にして下さいますから、別段嫌と思ふ程のことも氣附きません。殊に下層社會の人達は故國のと比較して見て、餘程好く禮儀正しく思はれました。只一つ惡いことで困ることは或る方々が極く小氣で容易に嘘言を吐くことです。一例を擧げて見ますなら商店に欲しいと思ふ品物の無いとき、番頭は其品が明日か明後は參るなど〻申します。併しそれは外さと出鱈目で、眞實ではありませんことを屢々經驗致しました。彼の事丈は大變困ります。何人樣でも不便を感ぜらるゝことと思ひます。

此御話の間姑樣は傍に座られて始終孩兒をあやなしながら、夫人が始めて此家に嫁られた時は未だ日本語を解せず、手眞似身振で意を通じたことなど談されました。夫人は日本語を解しますが未だよく操る程には至られません。御話は英語でしたが、時々姑樣に談かけられるなど、外方目にも睦しく、一體に柔和しい日本的性格の淑女と思ひました。斯る所へ舅樣が二人の孫方を連れてゝから歸つて來られました。記者は此の溫い而も特色のある家庭の幸福を祝しつゝ辭し去りました。

（一記者）

秋のけはひの立つまゝに、土御門殿のありさまいはんかたなくをかし。池のわたりの梢ども、やり水のほとりの草むらおのがじゝ、色づきわたりつゝ、大方の空のゑんなるにもてはやされて、不斷の御讀經のこゑ〴〵あはれまさりけり。やう〳〵涼しき風のけしきにも例の絶えせぬ水の音なひ、夜もすがら聞きまがはさる　（紫式部）

彙報

●新女學生訓十則なる●●●●●●●●●　女子教育家會議に於て討議の定せられたるもの、前十五ヶ條の訓則さ大差なき所訓可らず訓也　かゝる消極的なる女訓の成定を見さる可らざる程の女子教育の現狀を悲しむさ同時に、又かゝる女訓を必要さする家庭教育の狀態を想見すべく、世評は家庭に於ける父兄の責任を稱讃す可き事に一致せるが如し。

◉宣敎紀念會婦人會●●●●●●●　は去月七日豫定の如く擧行されたり、青年會の會場は綺羅星の如き内外の婦人によりて滿され、階上階下立錐の地も餘さず極めて盛會なりき、午前は傳道事業、敎育事業に關して十數名の講演あり、午後は社會改良に就て小崎千代子、井深子兩女史等の講演ありき。

◉香柏會●●●●●　會式　本郷教會内に於て高尙純潔なる趣味の普及さ相互の享樂さの目的を以て生れたる香柏會は去月九日午後七時本郷教會倶樂部樓上に於て開かれたり、會者男女を合して二十五名、海老名彈正、野口末彦小川東助諸氏の講演あり。追て同會は音樂部繪畫部及詠部の三部に夫々幹事を設けて定期の集會を催す由。

◉組合教會婦人大會●●●●●●●　去月十六日午後二時靈南坂教會に於て開會　頗る盛會なりき。本誌主筆安井哲子女史の「基督敎と家庭の感化」と宮川經輝氏の「宗教的素養」の講演あり、其大要は載せて本誌にあり。

◉慈善演藝會●●●●　あやめ會主催にて本月十七十八兩日神田美土代町青年會館に於て慈善演藝會開催の計劃あるやに聞く。

編輯だより

▲秋もやゝに老けて、細り行く蟲の聲さへ今は早や斷ねなん風情に、あはれは夜每に深うなりまさり行くよ。秋さしなれば机上の燈火のいさ明ねゆくもあやしく、冴ねたる燈火の下には何さなき安からぬ心の胸に湧くが常なるも不思議なり。されば過し方行く末の思に堪へやらで、長き夜をうつゝなう夢にもなすぞさ人に語らば、强烈なる刺戟ならでは興を感ぜぬ程世に統める現代の人々よりは、餘りに陳套なる語り草さして捨てられもせん。まして又其堪へやらぬ思の内容を披瀝せば、落ちて飛ぶ木の葉の樣よりもはかなきものぞさ笑はれもせん。されど人には價値なき思も、われには尊き無二の寶也。おのが今日迄勵み來し路なればこそ、人には云ひ難き價値ありさこそ覺ゆれ。よしや路の邊には華麗繁りて艶麗の花なく馥郁の香なくさも、尙おのが身の捨て難きが如し。わが此思を否拒するは、現實のわれを刻下に斷ちて未知の世に擲つが如し。されば犬は人をして誠心より自己に執せんが爲めに人生に秋を賜へり　長き夜さ匂ねたる燈さ、追憶と希待を與へ賜へり。いさ靜かにいさ眞面目に過去を想ふ者の胸にこそ確實なる經綸はなるなれ、いでや秋のゆくに間もなきにまづおのづからを想はんかな。

▲次號締切は十一月十三日本社事務處宛乞御送附

本誌定價｛一部金拾錢（郵稅ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵稅ナシ）◎壹ケ年分十二部前金壹圓拾錢（郵稅ナシ）

外國行定價｛壹部金拾四錢（郵稅ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵稅ナシ）一ケ年分前金壹圓六拾錢（郵稅ナシ）

廣告料	
廿七字詰一行	金廿五錢
四分ノ一頁	金三圓
半頁	金五圓
一頁	金十圓
内表紙　二圓	外表紙拾八圓

●數回引續き御掲載の向へは大割引可致候

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●郵劵代用は一割増の計算にて御送附被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區小日向臺町
三丁目九十三番地
新人社事務所
振替貯金口座一四〇〇五

明治四十二年十月二十八日印刷
明治四十二年十一月　一　日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町三ノ九三　野口末彦
發行所　東京府下豐島郡巢鴨村大字巢鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市小坂區田町五丁目十一番地　審美活版所

院長診察月、水、木、金午前、松田醫學士診察火、土、
午前、窮者施診、火、木、午前、入院診斷後隨時應需、
松田、林、兩副長は目下當院に在勤、

電話本局（八八八病院用 八九八私宅用）

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地（御茶水橋畔）

院長　醫學士高田畊安

神奈川縣相州高座郡茅ケ崎村濱（停車場所在）

電話茅ケ崎（二番）

南湖院

河野副長は目下當院に在勤、
院長診察土曜日午後○同時窮者施診、
副長診察月、火、水、木、金、土、午前
入院診斷後隨時應需、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

ライオン煉歯磨

朝の寢覺の心地悪しきも一度ライオン煉歯磨を用ゆれば心身忽ち快活なること恰も大旱の苗に沛然の雨を得たるが如し尚且つ歯牙をして健全雪白ならしむ特效に至りては既に愛用諸彦の實驗に徴して明なり

新製(十二)號は乳白色の瓶入にてニッケル蓋を有し體裁美なる楕圓形にして日常の御使用に便なり

◉定價　壹個僅に　十二錢

試用見本

として御入用の方は郵券十二錢御送付あれ一個郵送す

發賣元

東京神田柳原川岸

小林富次郎